

翠如堂人錄

二

^ 13

3024

2

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

琴^{きん}聲^{せい}美^び人^{じん}錄^{ろく}
編^{へん} 上の巻

門 へ 13
3024
2

昭和九年
七月二十五日
購求

翠

A black and white woodblock-style illustration of a cat sitting and looking back over its shoulder. The cat is depicted with bold, expressive black lines on a light background. It is shown in profile, sitting down, with its head turned sharply to look back at its own back. The cat's fur is suggested with some hatching and solid black areas, particularly on its head and back. The overall style is minimalist and graphic, characteristic of traditional East Asian ink wash art.

泉
太

梓

梅
嶺
樓
画

あきまわかれし書物なりと云ふを抄き筆もいへばまゝに紙の
軒の葎ともみは筆で採秋にその火の事案をとりて云ふるを
妻子らに國ふさく杖つきの身中法とめて筆と料しむるを
目の中にも書入りのもありやうやありといふにぞいふか
柄の牡蛎ぶうきあるひのち成た玉六州さじの筆とてすそ
型とて練よりさめくる夏の蝶をそれかきよきかきつけたりとて
美人録の二篇をあてめたらぐあらぐいさあり由急決のす
こしらへといひけり云々今一年ひとそせらふといひけるなり
いるとがごとく硯の海は等の掉をときてすこたりなること
みの四角んをあんかきながしぬハ十一歳

十月稿本同晚冬上梓
庚戌之春新板之志

山東菴京山

A circular library stamp from the University of Chicago Asian Library. The text "UNIVERSITY OF CHICAGO" is arranged in a circle around the top, and "ASIAN LIBRARY" is at the bottom. In the center, there is a stylized emblem.

琴声美人録四巻

初段・三つより三きの

かまへてねたがやうなりけり
又石へ金たまふつるなり
見せられ熱でたぐりまや
と見せられぬまやあや

かあちの内あきの
あり百ち
りやう
人はい
あやう
母あて
きうて

あやう
人はい
あやう
母あて
きうて

あやう
人はい
あやう
母あて
きうて



つま
あやう

石へ金大夫

せれ
金の通

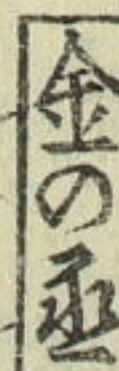


あやう
人はい
あやう
母あて
きうて

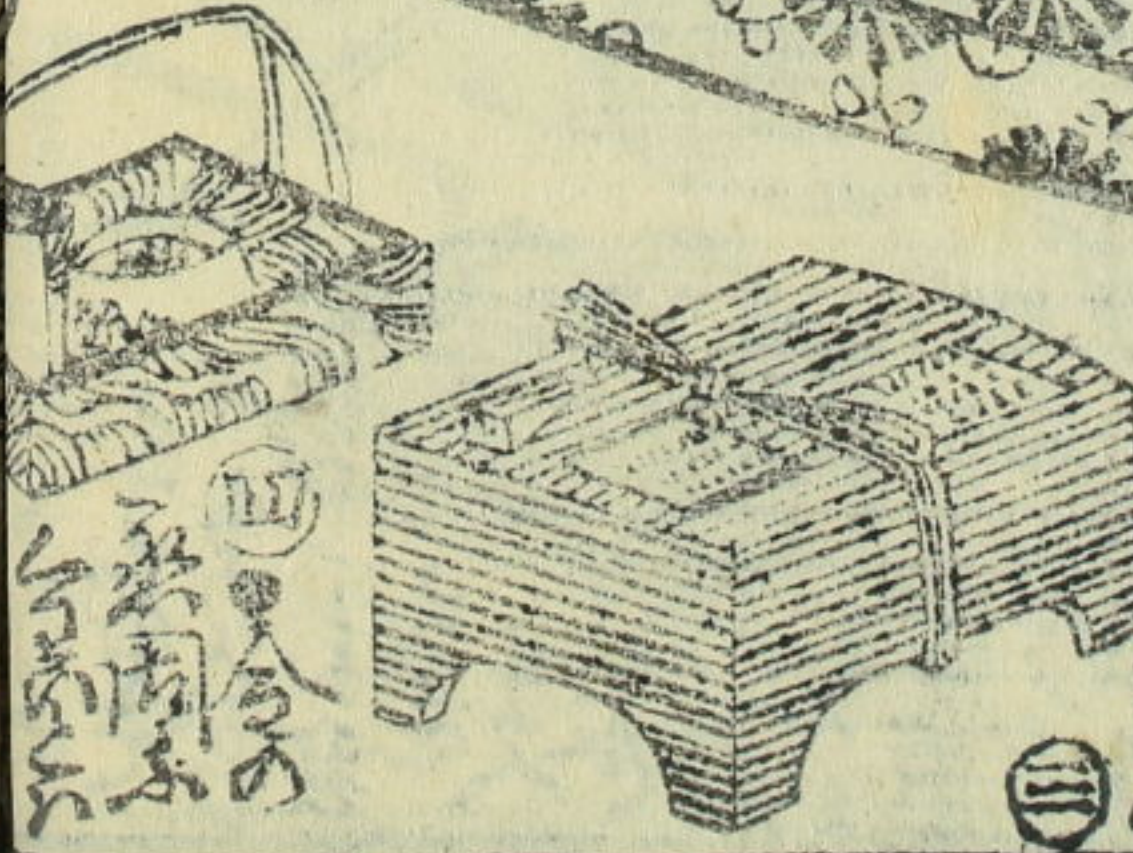
三

三

卷八



① 三つにわく
 ② 三つにわく
 ③ 三つにわく
 ④ 三つにわく
 ⑤ 三つにわく
 ⑥ 三つにわく
 ⑦ 三つにわく
 ⑧ 三つにわく
 ⑨ 三つにわく
 ⑩ 三つにわく
 ⑪ 三つにわく
 ⑫ 三つにわく
 ⑬ 三つにわく
 ⑭ 三つにわく
 ⑮ 三つにわく
 ⑯ 三つにわく
 ⑰ 三つにわく
 ⑱ 三つにわく
 ⑲ 三つにわく
 ⑳ 三つにわく
 ㉑ 三つにわく
 ㉒ 三つにわく
 ㉓ 三つにわく
 ㉔ 三つにわく
 ㉕ 三つにわく
 ㉖ 三つにわく
 ㉗ 三つにわく
 ㉘ 三つにわく
 ㉙ 三つにわく
 ㉚ 三つにわく
 ㉛ 三つにわく
 ㉜ 三つにわく
 ㉝ 三つにわく
 ㉞ 三つにわく
 ㉟ 三つにわく
 ㊱ 三つにわく
 ㊲ 三つにわく
 ㊳ 三つにわく
 ㊴ 三つにわく
 ㊵ 三つにわく
 ㊶ 三つにわく
 ㊷ 三つにわく
 ㊸ 三つにわく
 ㊹ 三つにわく
 ㊺ 三つにわく
 ㊻ 三つにわく
 ㊼ 三つにわく
 ㊽ 三つにわく
 ㊾ 三つにわく
 ㊿ 三つにわく



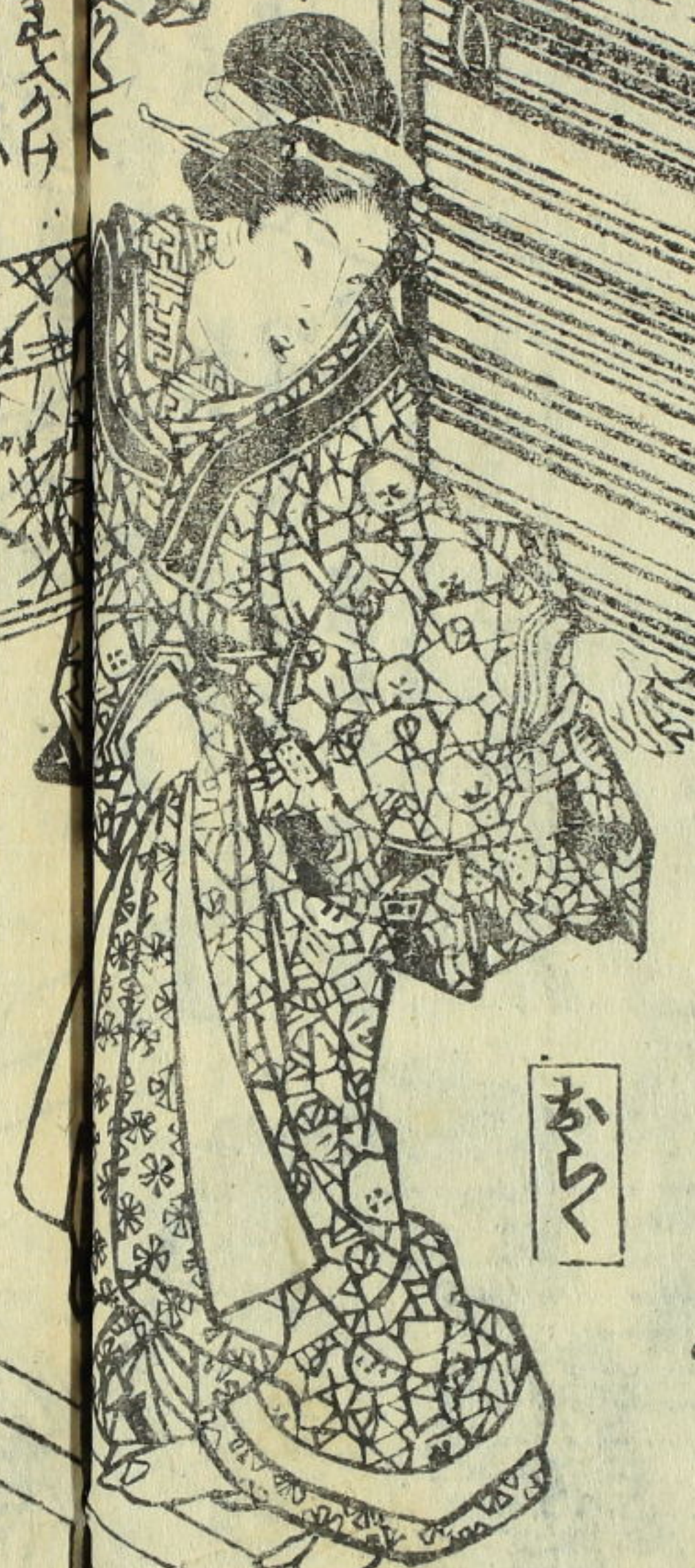
東山先生集

[illegible]

又いそはのぼる
かうけとかれこれ
まのふみきき
けれふそふり
けり

五
辰

それへさそふにけんへち
門へあつらふめいと
まきふ用あつて
立つてんとあつて
女房あまの
へ内ふあるせん
けふきふきふ
ひのかけあひ
あつらふめいと
きく人でも
たのきふ
よきふあつ
あつと
こころや
のちみさんふ
あつとてせ
まふとてせ
あつとてせ



目井唐
と云
ちりて
とそ二分の
さうをいふ
からくが
るるべんと
まじぎに
のちひるがら
れとりな
にかきん
あでなりや
ハ車より先
あやこし入用
あのかり



かこ

孝の
子
かき

卷之五

ち

分



ハ

ちんきうの
あつちの
あつちの
あつちの

と公
と公
と公
と公
と公

作者のけしき
 多分天の公家
 言せんといひ
 して

おろこ
 あつこ

目黒のしんごの
 せんりやとていふ
 なまはくふその
 くらまきーけ

母

③子ざ
ひきり
わら
あひり
金の
やま

かくてうぢまゝとてせむらふのうぢまゝのうぢまゝのうぢまゝの日
 ぬえにうぢまゝのうぢまゝのうぢまゝのうぢまゝのうぢまゝのうぢまゝ

[illegible]

るはあやえりし
 せうとてのねまら
 びの九尺まはの
 どうつゝあふい
 今の月で 半もハ
 と金北とやんをせんそそろ
 かりがめとらとて半もかりま
 せうとかりとて半もかりま
 金をまらとて半もかりま
 ちまも金の半もかりま
 つまのかりま半もかりま
 ひんあふいとて半もかりま
 かりま半もかりま



かゝ
ぢやあゝと
うけざる由
せんくさく
ふたふたを
めちくふ取

①

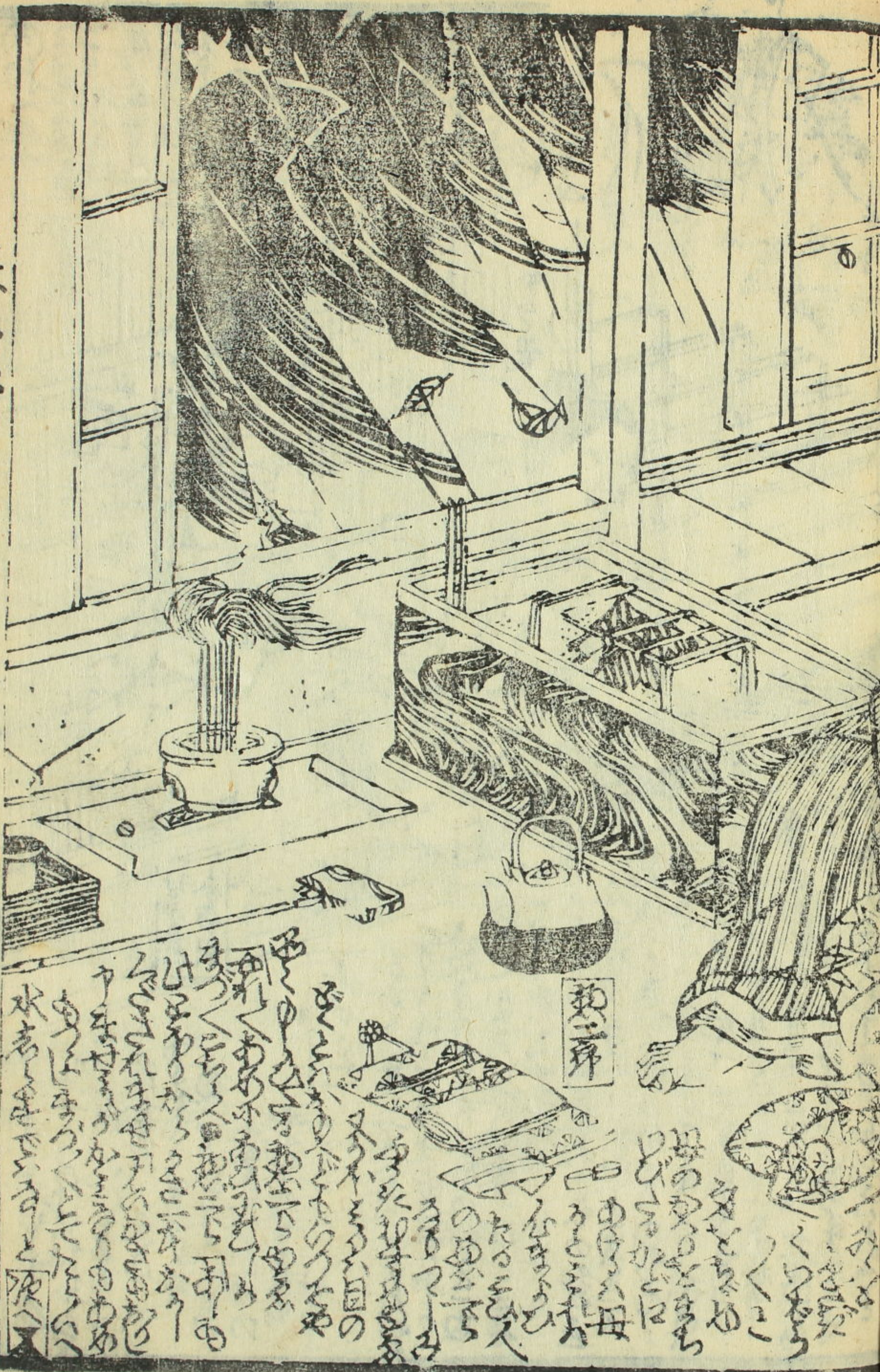
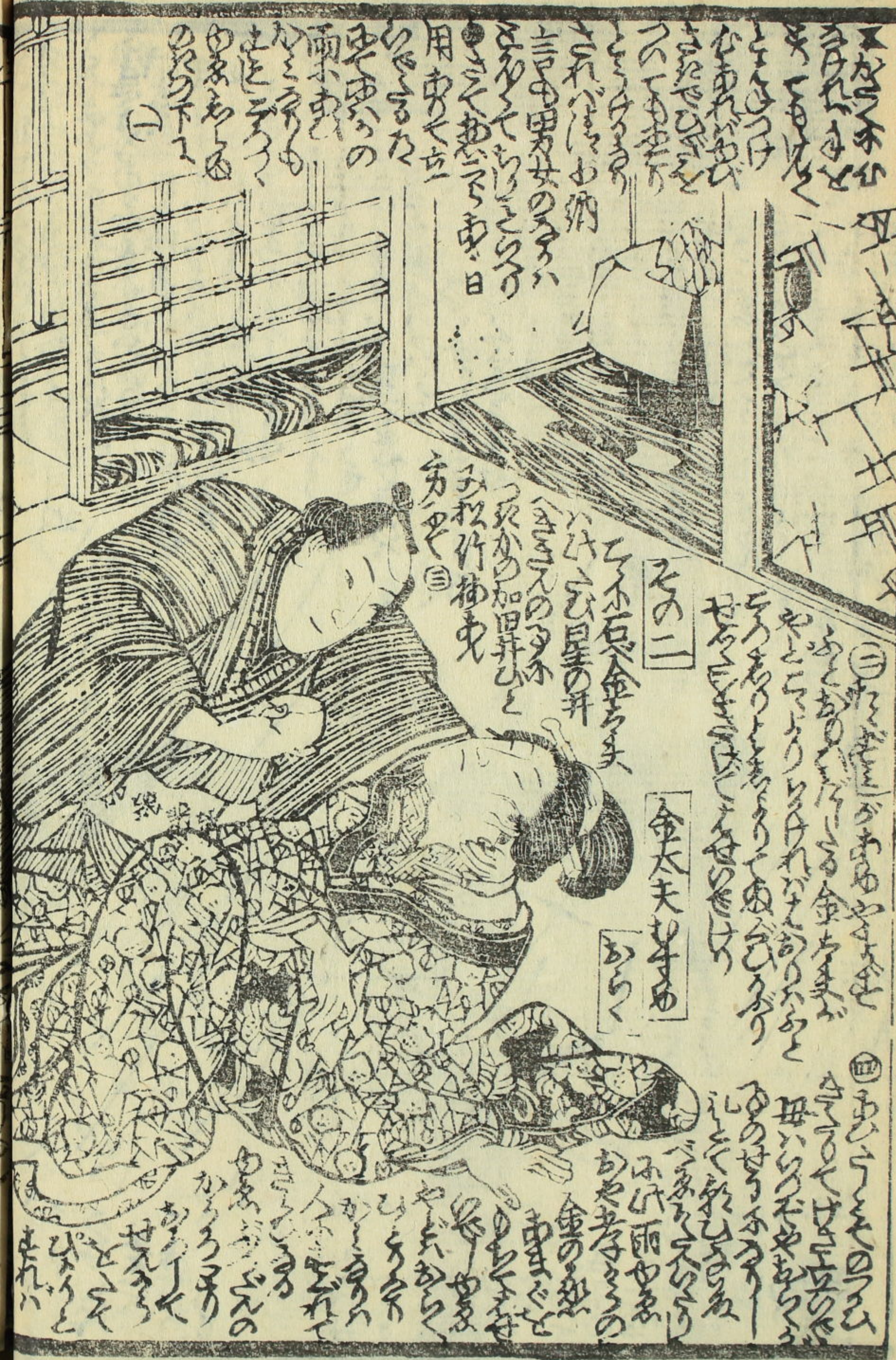
二の五

金太夫

五

孝子の


 金の糸
 ちまぐさ
 やまから
 ひろく
 かきまひ
 人さむれて
 みるゝる
 ちまぐさ
 ちまぐさ
 せえ
 ぴろく
 まれ

[illegible]

[illegible]

(三) ちやうど
おちのてうぐい
ををつふそで
あやうえを
にへつても
ひらぬまじり
とむりゆのみせ
めくらまきも
まきうるまき
さくらくはる
みへによせ
「あらまき」
「あらまき」目と
ひらまき

(三)

四
教下
日あり
肉あり
あり
あり
あり

热下痢

子

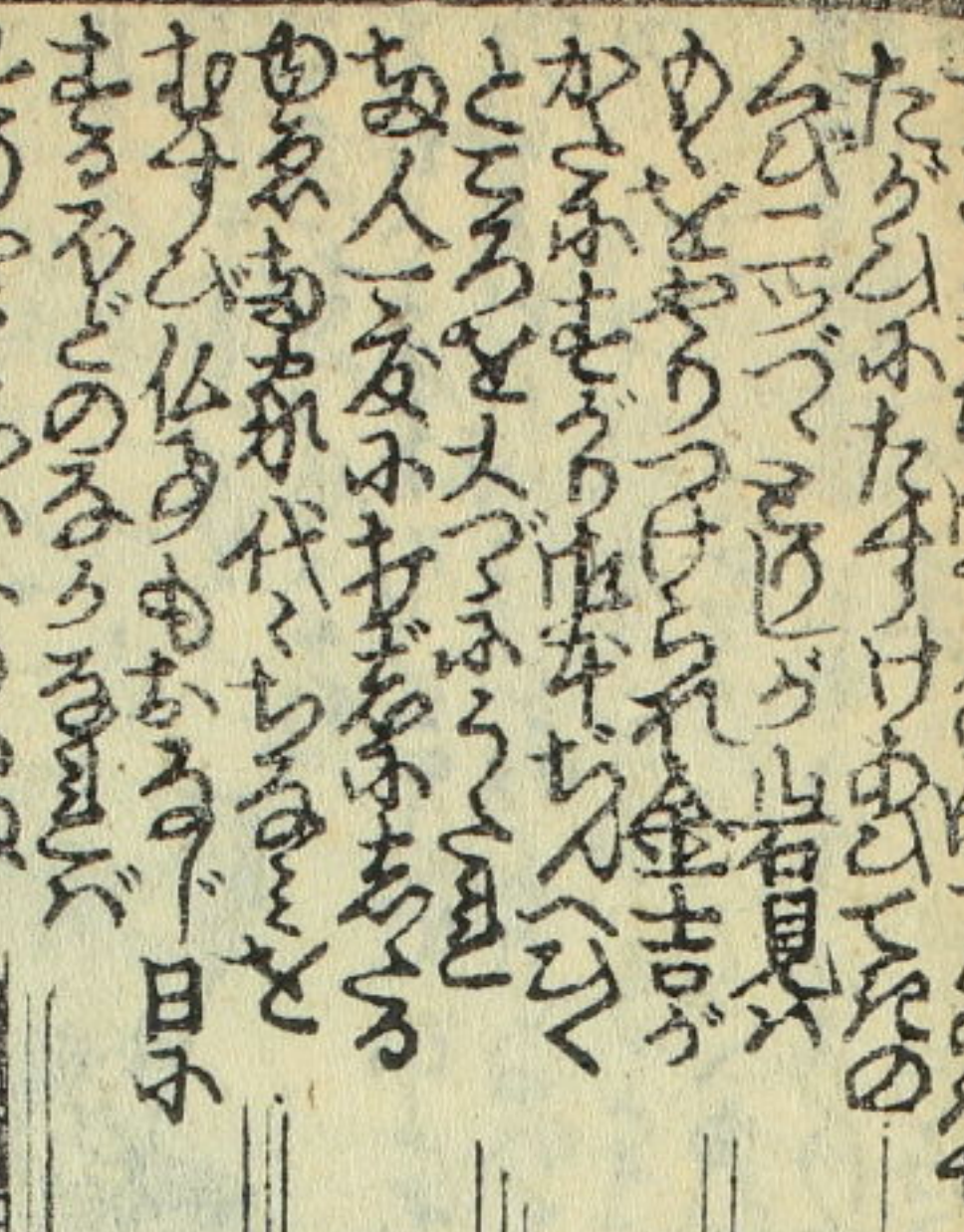
我々も
 幸ひふたを
 ういこのふけふ
 そふあまを
 救てきたる
 まさゆかふふふ
 そりなきわき
 入道の①

甘き酒
金酒

そのと

入るにあらざりて
 てふつとせられぬら
 ちめぬれどもさうい
 のにかきこむもの
 るをあらうけるが
 あてにくらうるま
 ゆゑたあめの
 やむをのたまはち
 けり

男ともがせんと加井山石見



十一
吸

金太夫と

十二

さるやとお秋もなれて
冬の下ふふふなり
今をたまききえんるひ
この人か目もえぬま
てちぎきりも

せしとらん
おとて
あらふふ
つとれて
かり
とろろり
あらふふ (三)

させなふりぬを
 さぞてんきう
 さまうちん
 とものつき
 ことなふ
 金まふま
 やろく

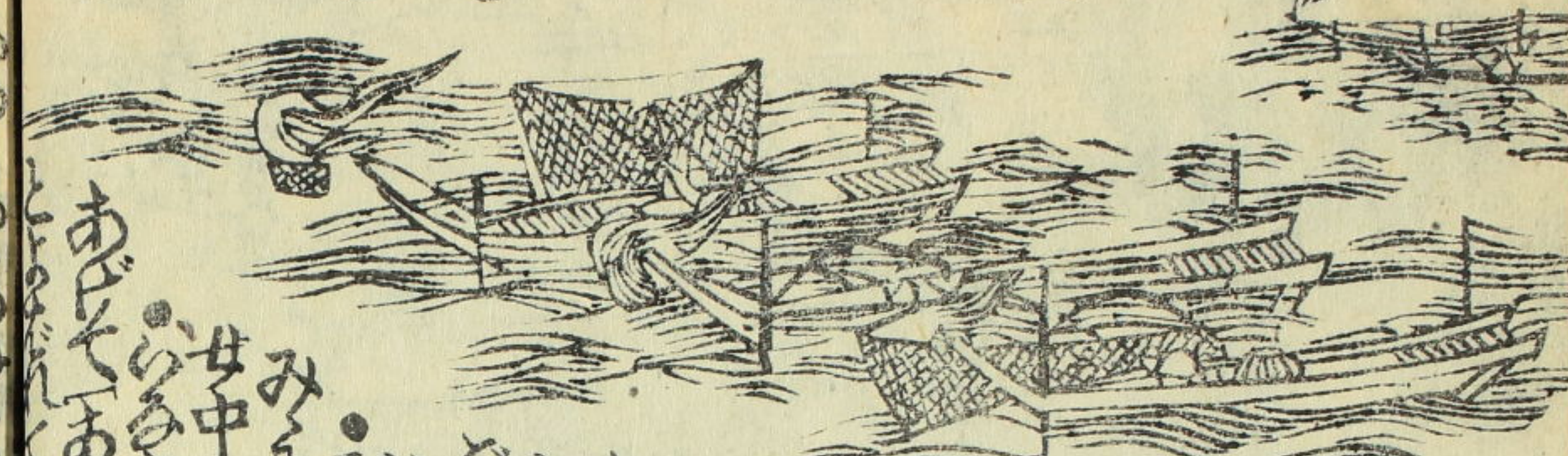
(一)



This is a black and white woodblock print illustration of a seascape. The background is filled with stylized, wavy lines representing the ocean. In the foreground, there are several dark, leafy branches or seaweed extending from the right side towards the center. A small, light-colored object, possibly a bird or a small boat, is visible in the upper left corner.

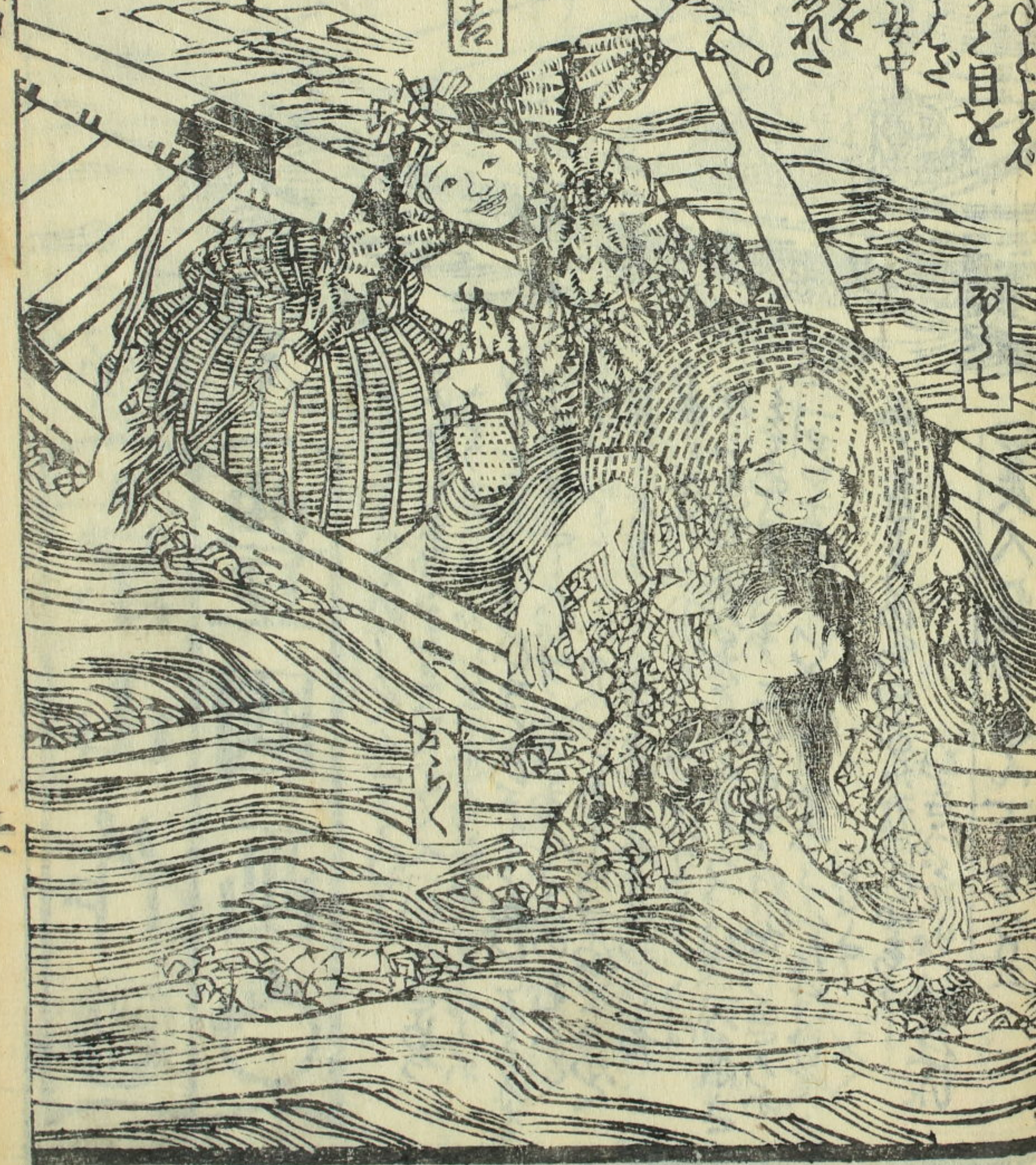
[illegible]

女もや
 とあめ
 おう
 もつ
 まふ
 りんかき
 こころも
 ささるま
 きりひし
 こゝろたを
 うみへ
 さえとを
 あく水に
 はなれぬ
 王さまは
 てんとと
 のりて



(二) ゆきとるおびと
あつしゆわうくふ
はたふたをええ
かむけいぬのや
もうおびとあめ
めるりんさんそ
うさつのだらう
月をとくらんぞ
このやいなまち
くりあるあそ
いとあみ子
ふさふさいだむけ
月をさうすあ
あひけいふにより
なまのそのの水を
かむけいでて
えくと水をた
らんといとあ
がら七ならぐ
小にふせこや
きがつのも
もろごころち
ねえせんやい

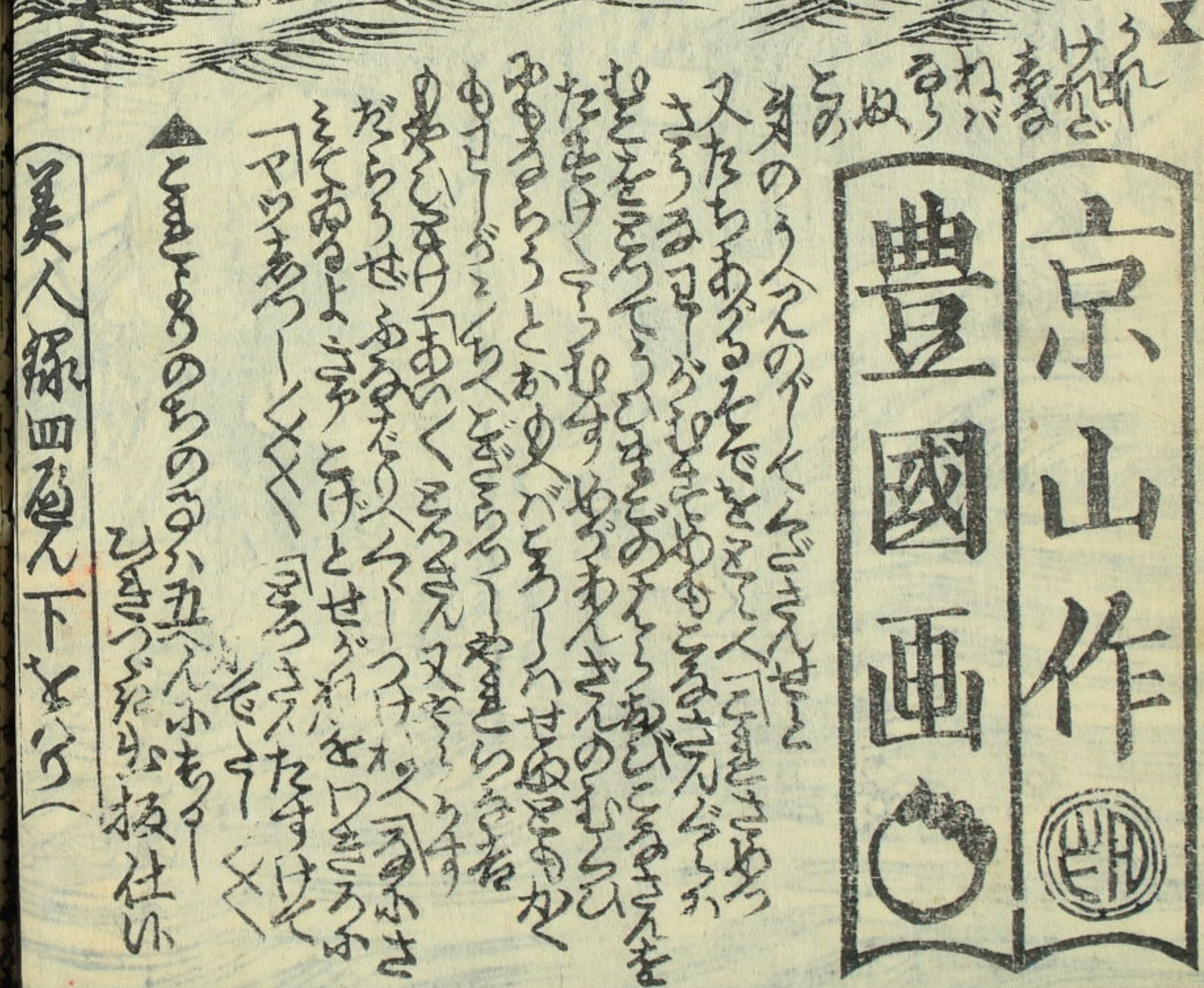
まてしめ今ゝの来と目と
 ひききり文トひきりんとぞ
 こををかまは●こまに中
 たらむもまゝてゆを
 ゐりりひかりりこまれ

[illegible]

五言古詩

卷七

卷之四



美人錄四卷元下七分

大五ノ小老ノ
乙子ノ生ノ扱仕ノ

年々種相似る皇歳々年々趣向
心もあらまふわが
のち續いてこれを自ら其拙き
とありども前年書肆に催促あり
篇あり鳴呼より上錦の機
窓の目あてわたりふむ
目の志ありわが水一ぬ

嘉永二年己酉之春稿本同晚秋
上梓庚戌の新版

八十一翁
山東菴

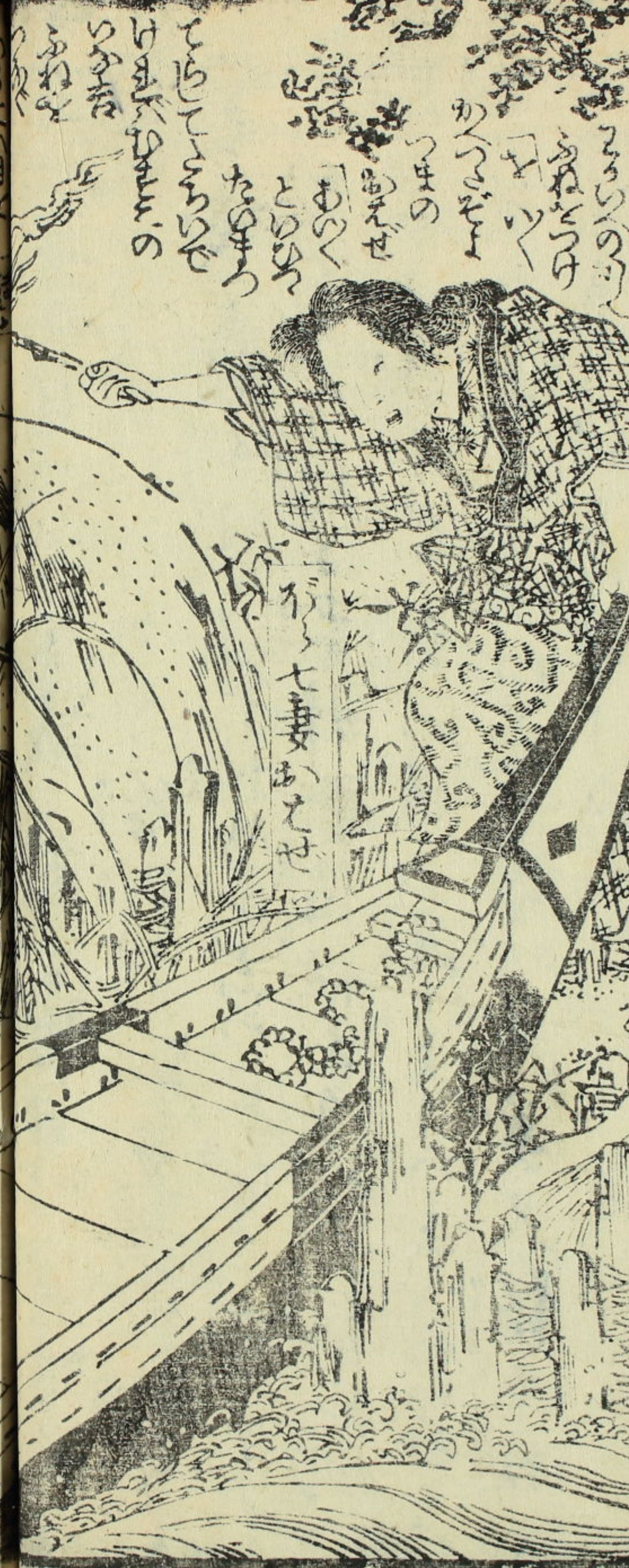


美人錄五編

琴聲美人録五編上巻

初段

今やわがまはあまの川の水を
 せしめあまの川の水を
 せしめあまの川の水を
 せしめあまの川の水を



わがまはあまの川の水を

あまの川の水を
 あまの川の水を
 あまの川の水を
 あまの川の水を

今太夫娘あまの川の水を



あまの川の水を
 あまの川の水を
 あまの川の水を
 あまの川の水を

あつと

(四) あつと
いふは、おのれのおまへ
ひびきのおもひとてえ
まゐるごうらん
そのおまへは、おまへ
あつと、あつと、
ごうらん

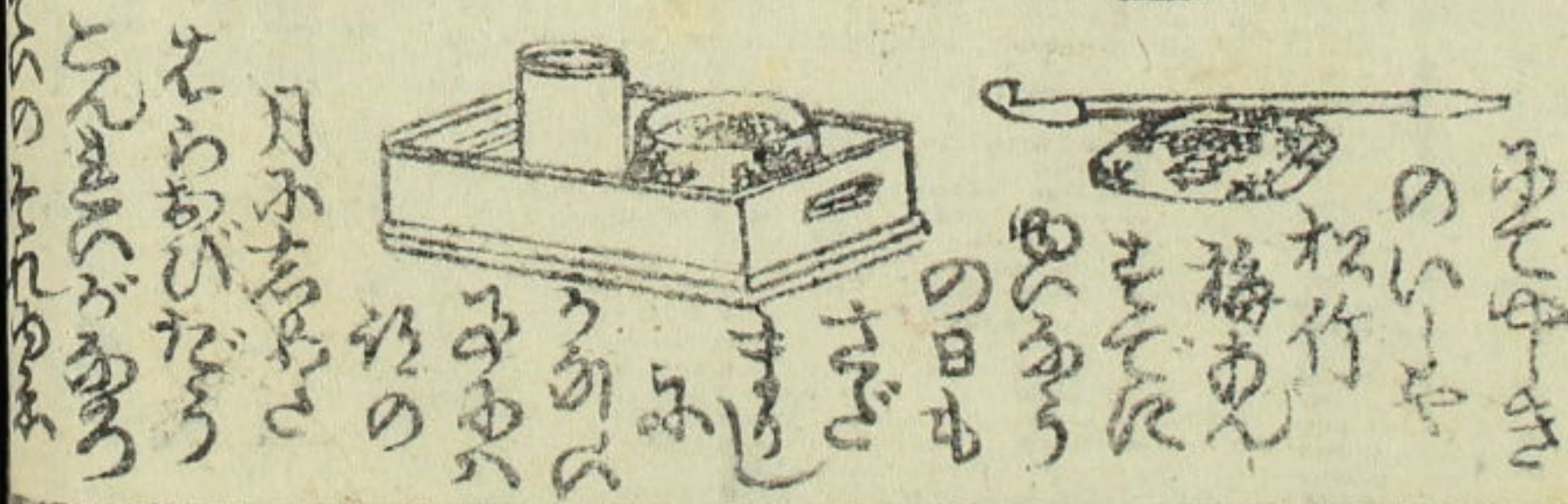
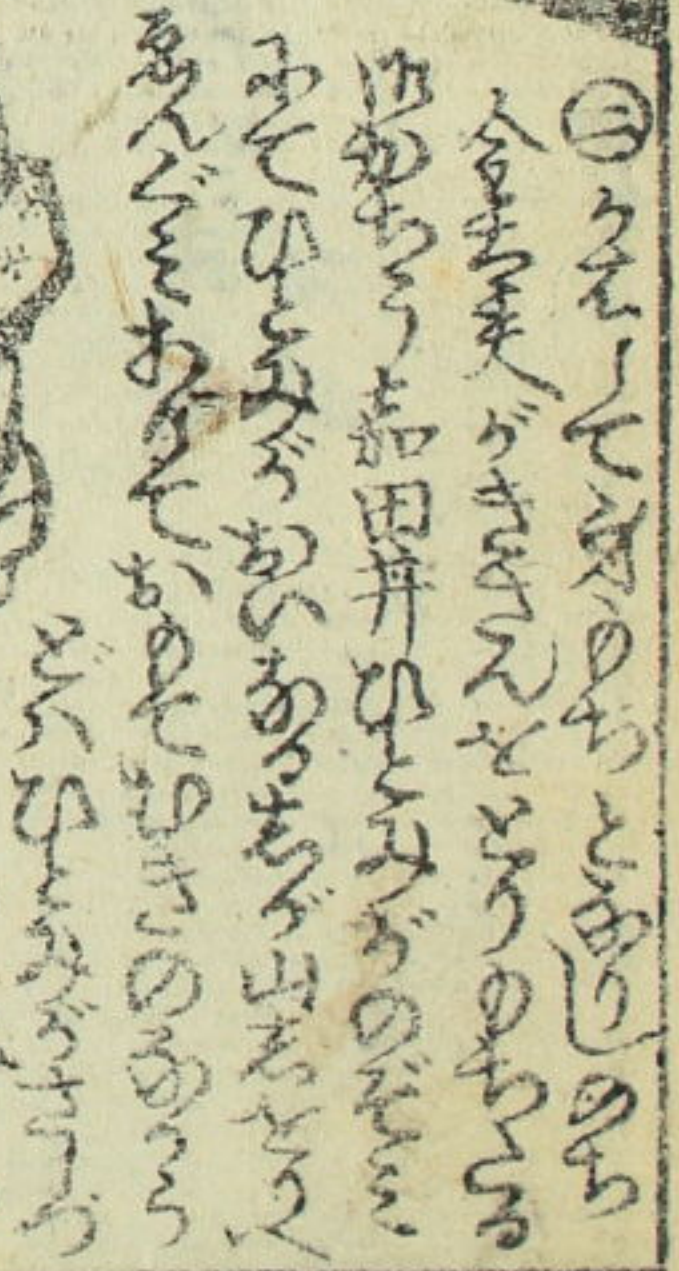
(五)

(六) あま
おまへを
つまで
れのべ
ひんかこ
ろくろ
かみそり
うきやう

あまのせい
さあせいのじ
くち

[illegible]

ちやね、ちやね、そのひのくじ
 マアあやふふ今あまふさぬの
 ちやね、ちやね、そのひのくじ
 マアあやふふ今あまふさぬの
 ちやね、ちやね、そのひのくじ
 マアあやふふ今あまふさぬの



④ かけくちあひあひき
 けすのもてふたきけくもふふ
 おもてふらんふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふふふ

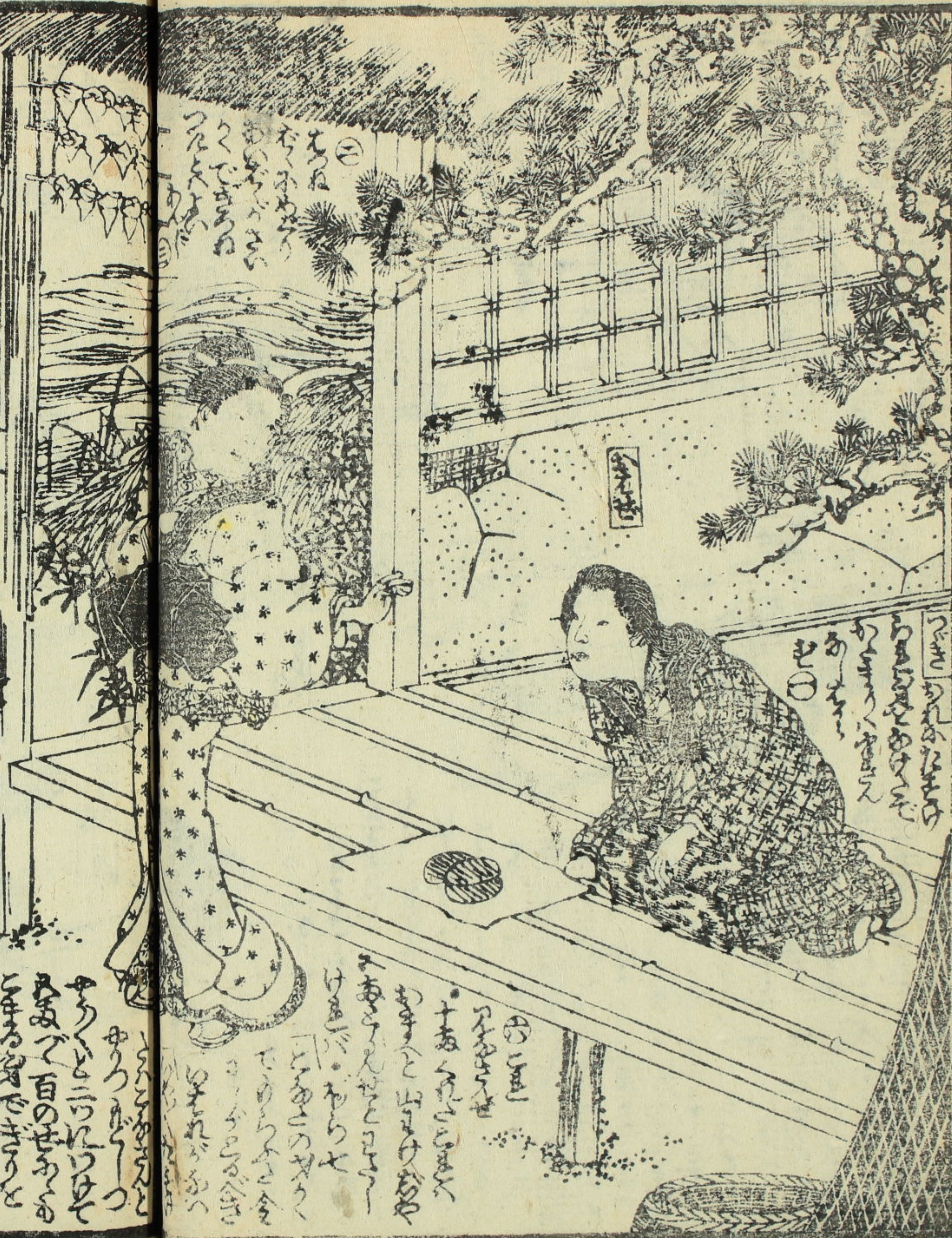


之

[illegible]

ちねぢぢ

ねむく
 けふもわさうちとてあけのま
 もいそぎにあられとも十あを
 ひらいてとらざるならねえあそけ
 ざらざら七人のうちを牛あなまうて
 よふあけいざしてあふあふさうん
 あうんざうありけりあふあうの
 やこれけりハカキと大あれ
 バハをみじ中あれば家や
 わろがー小あはばあふあふ
 止そのもつてハカキと大あれ
 ひかりやうでうりまあと
 く二代目と大ナナでん
 あふいこうこれとあいらとよく
 との二とつちあふるあふる
 ちうめうのいんとあふあふだう
 きとあふいざんあうて

[illegible]

つま かねなまひ
らまゝとあけそ
かまゝへおえ
あはれ
む〇

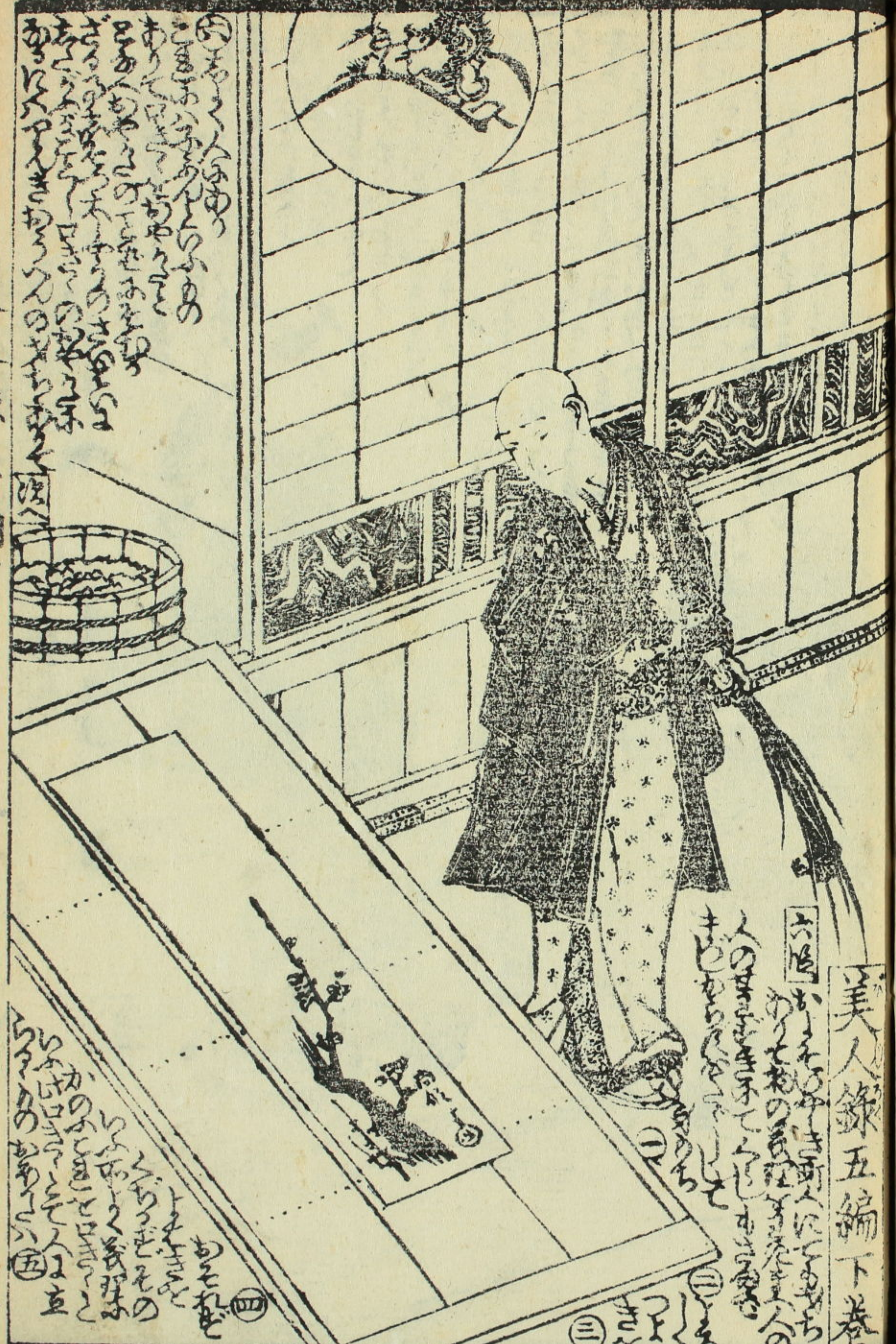
○の道
のふりえせ
十あるれこまへ
あすへと山よけおや
いあらうんせとこさう
けさバ・わらセ
「いあらこのサウ」
でめらふと今
いふかゝるべき
いそれがおひ

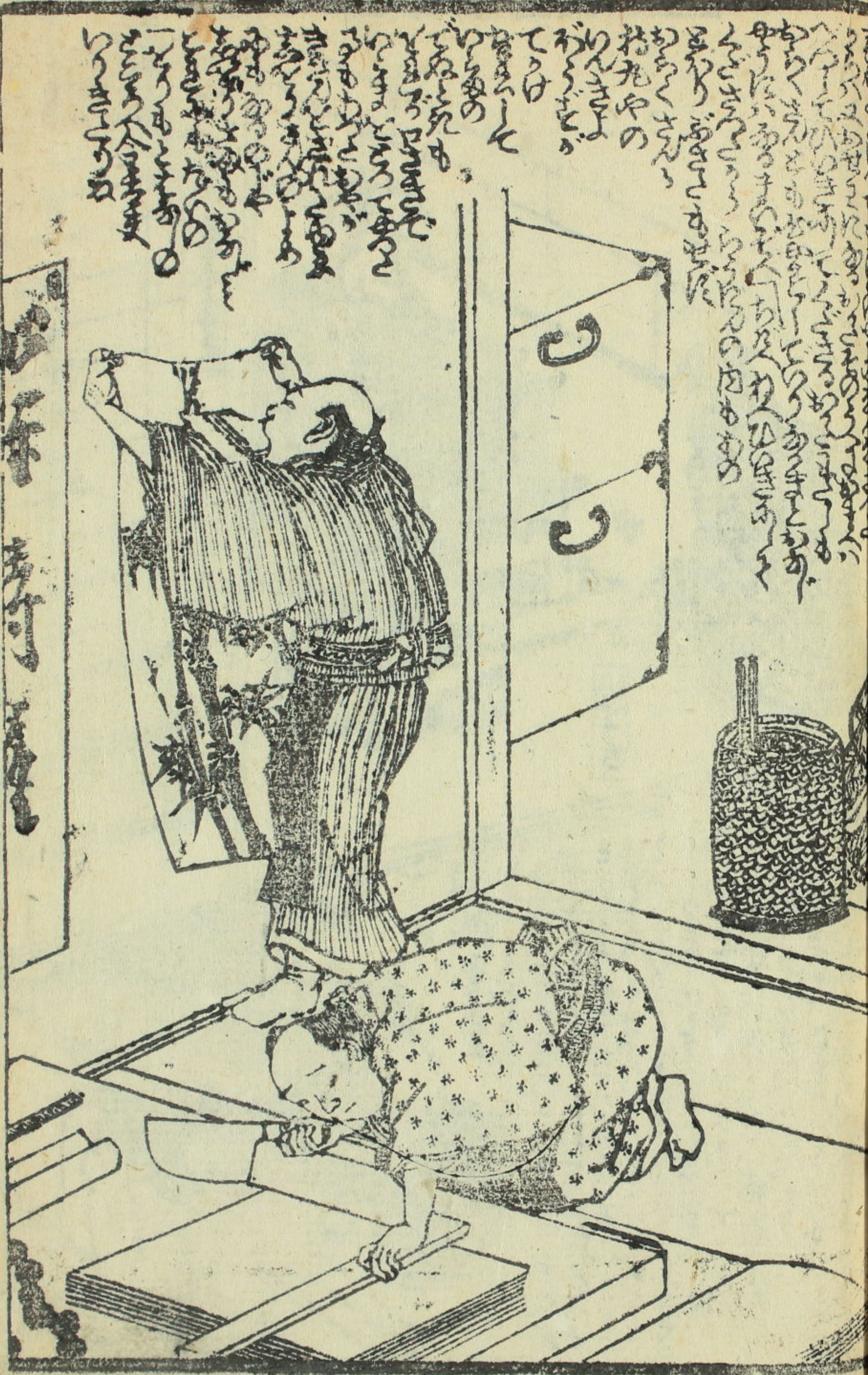
十

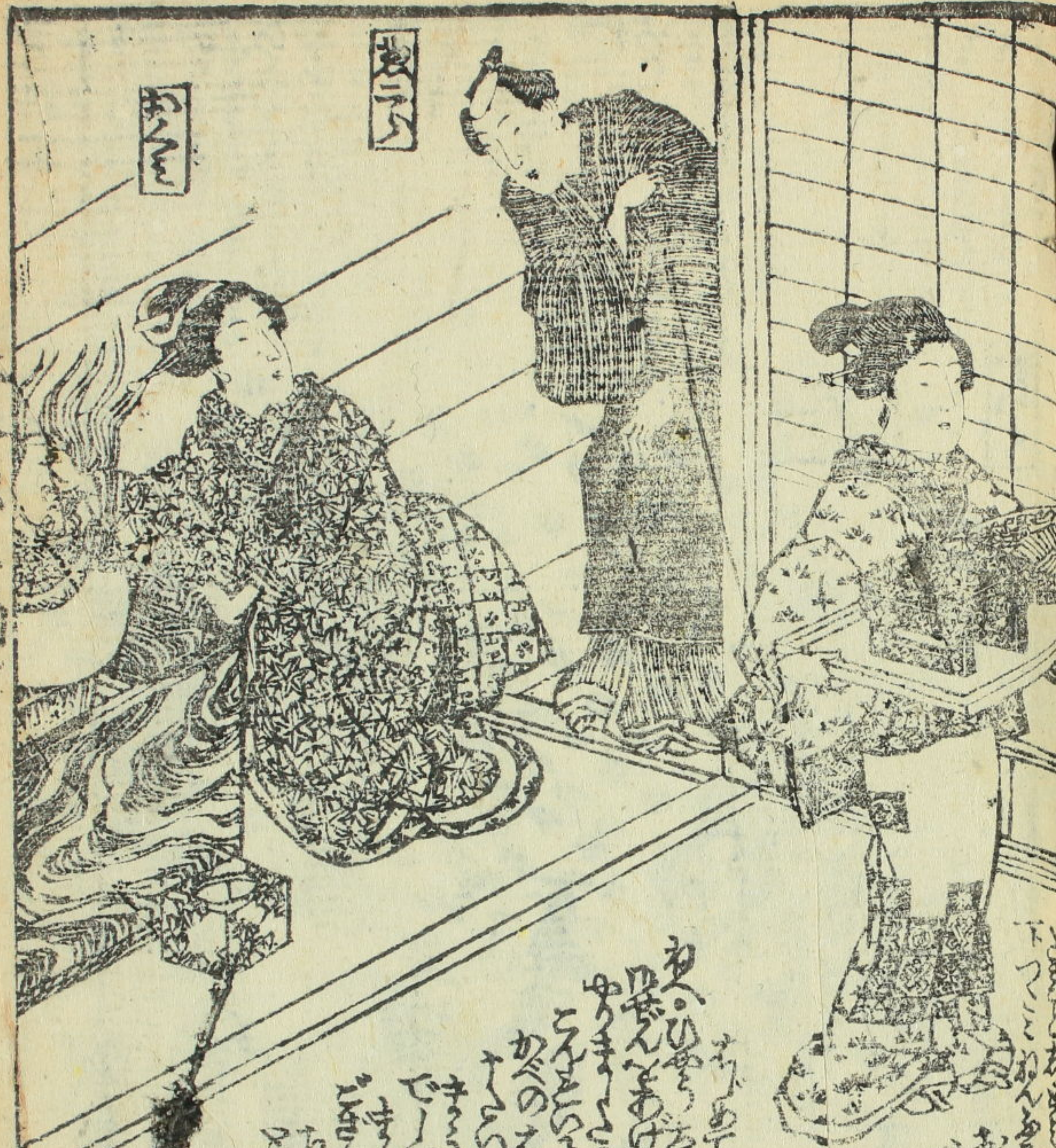
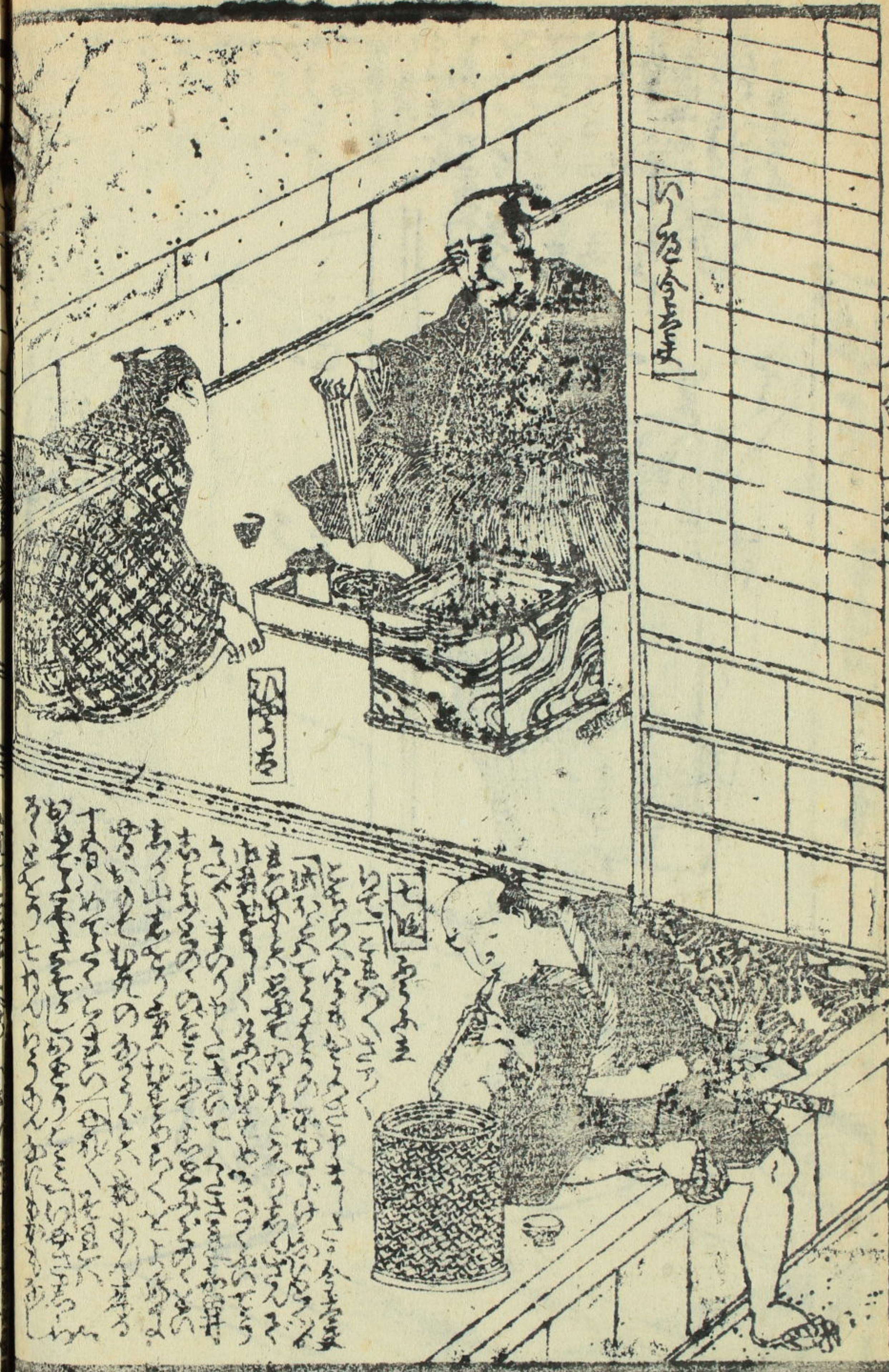
けい合あり
 男八かゝり
 ふを教と
 けい合あり
 おんはん
 けい合あり
 まゐる
 用ひを
 する
 なる

三

あそれぞ
とまきと
くちぎその
いふより
かのみと
いふは
らたりの
(五)





[illegible]

美人金瓶下

五

五

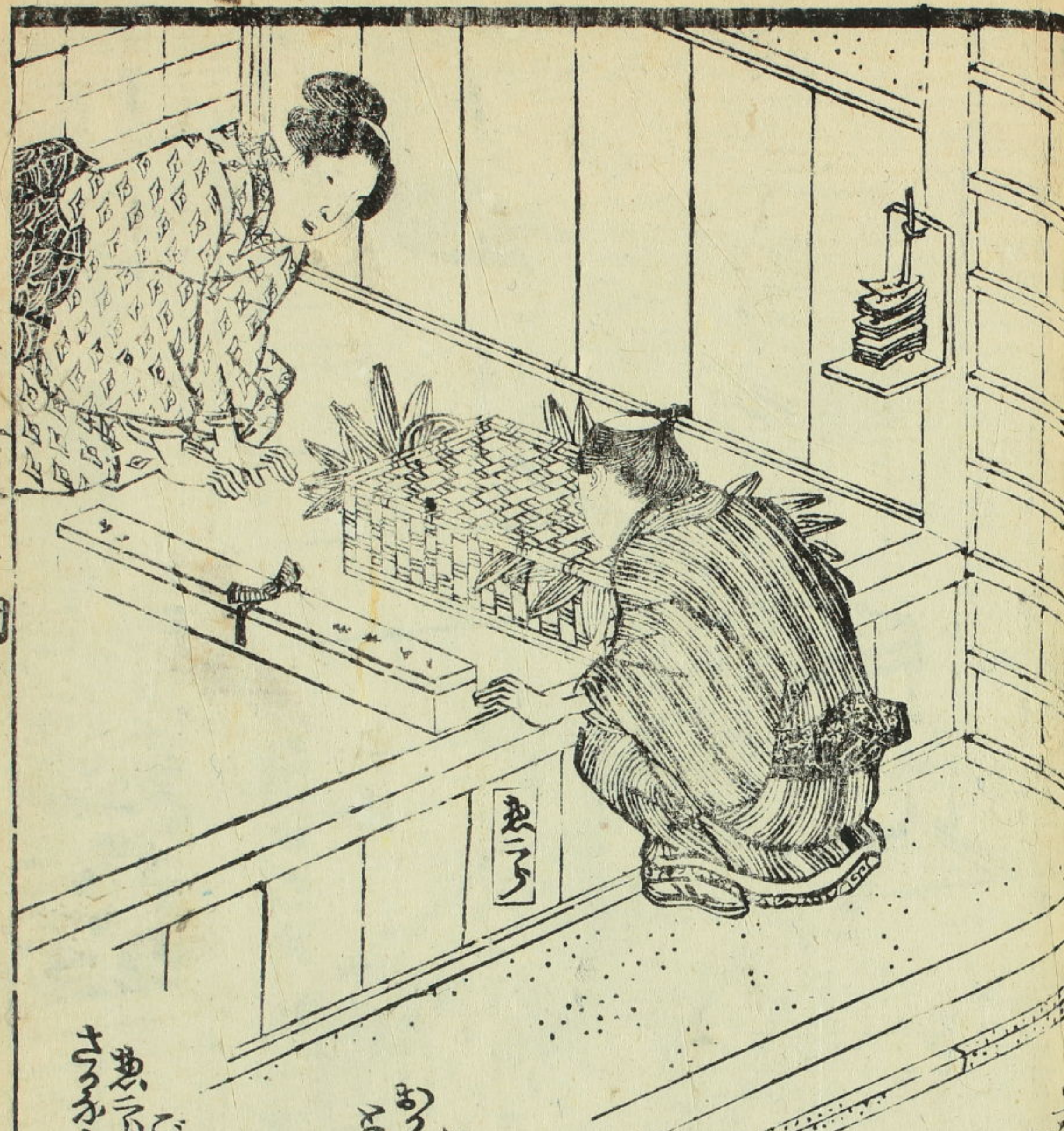
卷二

一、其のひきと
 わねひつふあひ
 ありきひきあひ
 なきにても熱下ふ
 せうやうどうき
 今もまださうき
 のきうきあひと
 ひきあひとふ
 されきと
 とききと
 かきと
 ひきあひ
 まきと
 ときき
 八段
 かて熱下
 うきひきあひ
 ひきあひと

ちんぐふ
おね

(二) だんのか
日こそ
いふふわは
あらぐが母
熱下ふ
あひふ
ふもあは
まひで
あひさる
まけれど
まふ
うせ
あらぐ
いふ
む

張

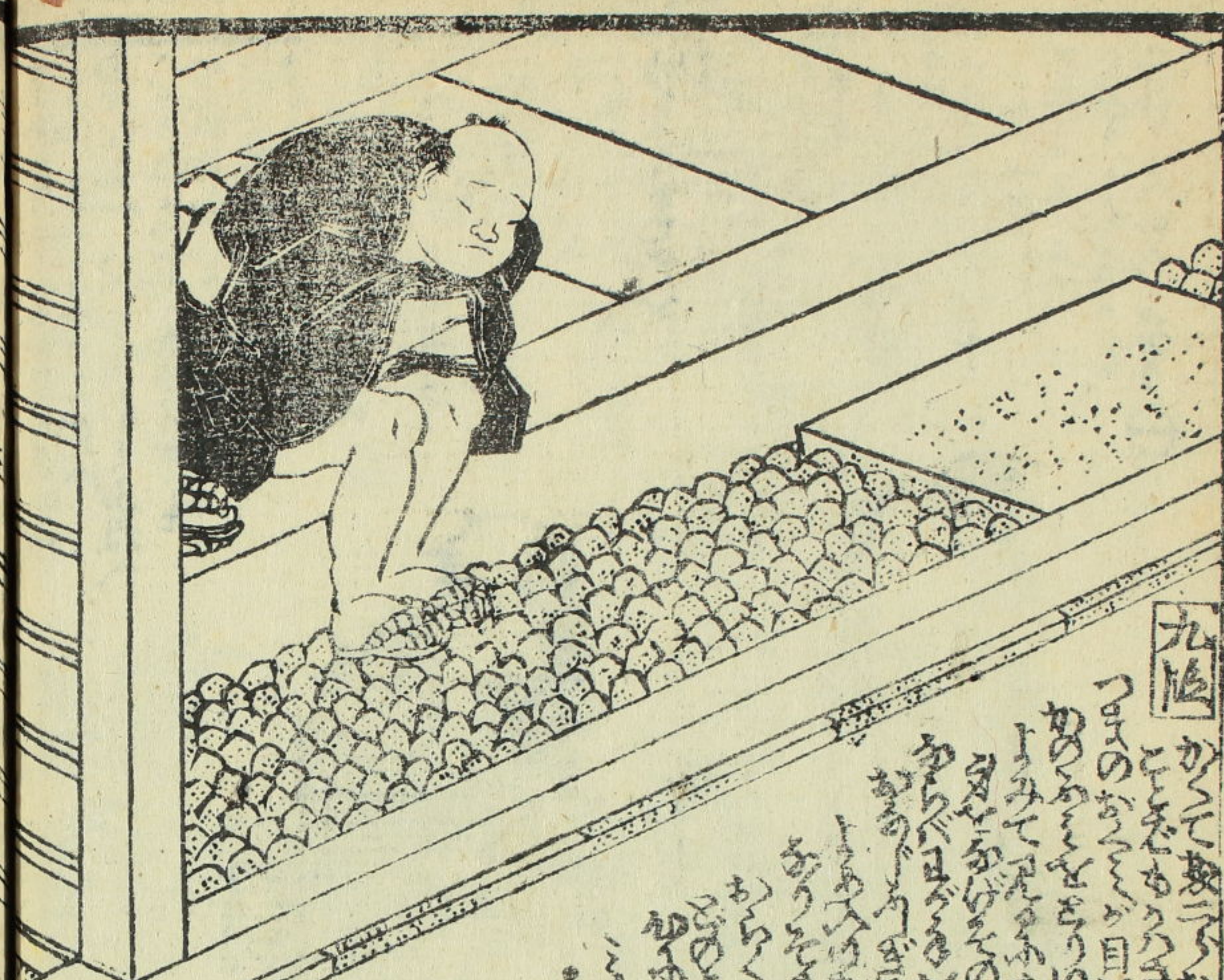


七、八、九、十のうゝいふやうなと
 りてさきこまはハカおつゝへの
 おけりぬことあつたにちよとあり
 さをうけるにまほし女あひくど
 のうめだきてあへ二百つじ
 とのせといふこと今もなき
 ゆゑあけりぬのわけてゆけと
 かみあつたこれへあつたごま
 ございさくト志年ふむるなり
 惣て二百八十ころへはあつたの
 さうかうとまげていふあつたごま
 かかりけり

かゝと云ふことにてけを
●熱なりおき肉もまつと
かりけりわくわく
いふとささかかといふ
いふて見ればささひ
もひるくくじもささ
まきさぬわかれらのよあ
ふふかりくへささ
せふとありけり
かてふもへあさ
かゝといふ

言ふにこれをかきうしむと
 女くくまに四首の歌を
 かくと二首とてうけまを
 欺てふかき肉をまうと
 かきけるおかしき
 かきとさぐさかきとさ

四言方これと方ううと



かくて我々もかくの如くして
 ことどもをうらなひてまゐる
 つまのちこゝ目まきのひかみいれ
 ねのふもをうらなひてまゐる
 上みて下みてふもをうらなひて
 月をうらなひてまゐる
 かくて我々もかくの如くして
 ことどもをうらなひてまゐる
 つまのちこゝ目まきのひかみいれ
 ねのふもをうらなひてまゐる
 上みて下みてふもをうらなひて
 月をうらなひてまゐる

つひにやれぬものなり 三へてん
 世へのよろこびは身はさる
 二面のかげにのみあり

わんこをその

おろそかにしてゐるもの

豊子公のちちのつひのしめを

三友記

オモひのすゝめ
のひれは、熱く
三をどるひ

ひきうちでろちの二をひめめ

まを栗日のまをゆいりぬ

梨子おのりくまはしきふく
 とちんたてがき入るあつなう

このよみ書あつていふに、あつてやト
いふか、いふ三書名の、いふ

おちぐらゝをふくむ山をうへ

いふはまた、道に又あるも
うそをいふのひてもうそをいふ

おきくやふふいのちたまふ

又、そのすゝめと
かゞまらぬとあはれとをいふ

よみて見ふをらそけゆふ
ふたがふのすけむと

かみゆきをさうびんと云ふ

つゞのちてく目まのびかみいれよう

九位
かて敷ておろくふゆとまの
てをぬくきりてまをす

五經下

美入金五

十

元元はさそふちうハ
えまの夜ひさう

A black and white line drawing of a decorative stand. The stand is a square box with a flat top and four vertical sides. Each side has a stylized, symmetrical cutout or relief design. On the top surface, two identical vases are placed side-by-side. Each vase has a bulbous body decorated with a repeating floral or geometric pattern and a long, slender neck. The necks are topped with large, leaf-like or fan-shaped ornaments that have a central vein and radiating lines. To the left of the stand, a portion of another object, possibly a bowl or a container, is visible.

かまろゝ龜が墨
日下山王さる

[illegible]

其の日に山王寺へ
 参りて其の山王寺へ
 参りて其の山王寺へ

あつてえんいあり居る
夜ふけての山王さぬ
まうしやの休みのせりも
こそたまはれの物なめ
おきくが成がさかしく
ゆとりありを
よびよせ
さきこり又
ひが氏子
ぬきも
みよせむ
たり
くらき
やきき
あれ
らへせと
ねえまのやの
れいありと
あらうとて
きくわたり
山王さぬのちあり
あすをよびくべからず
あだ七けんいせん



かきとねむが
うきとめいあり

卷二 郎

つらぬ コツキ
夢うゑも春
かひあつて
56ちさな
があらはの
るふき
あふちが
ゆふやう
めいり
ふきふ
ゆふに
うふと
せふ
ありが
あふま
あひー
ゆふよ
ゆふや
くちや
あふんや
ゆふい
ゆふあり
こふしあり
との大甲ろの
あふんや
とのゆふあり

次へ

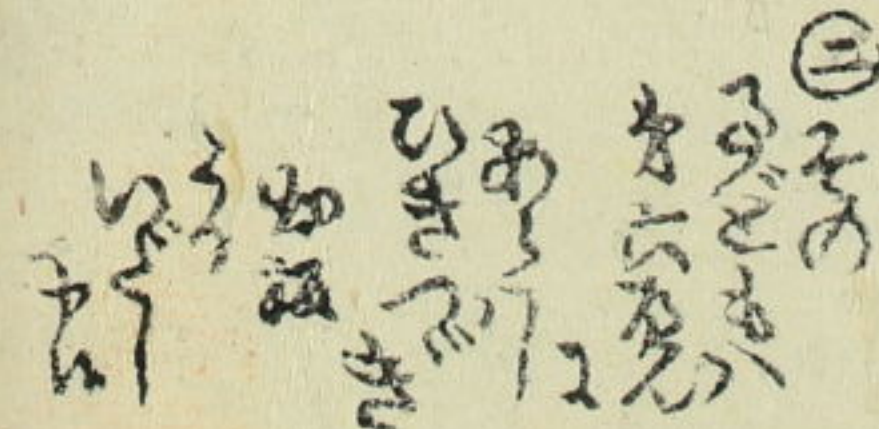
次

卷五

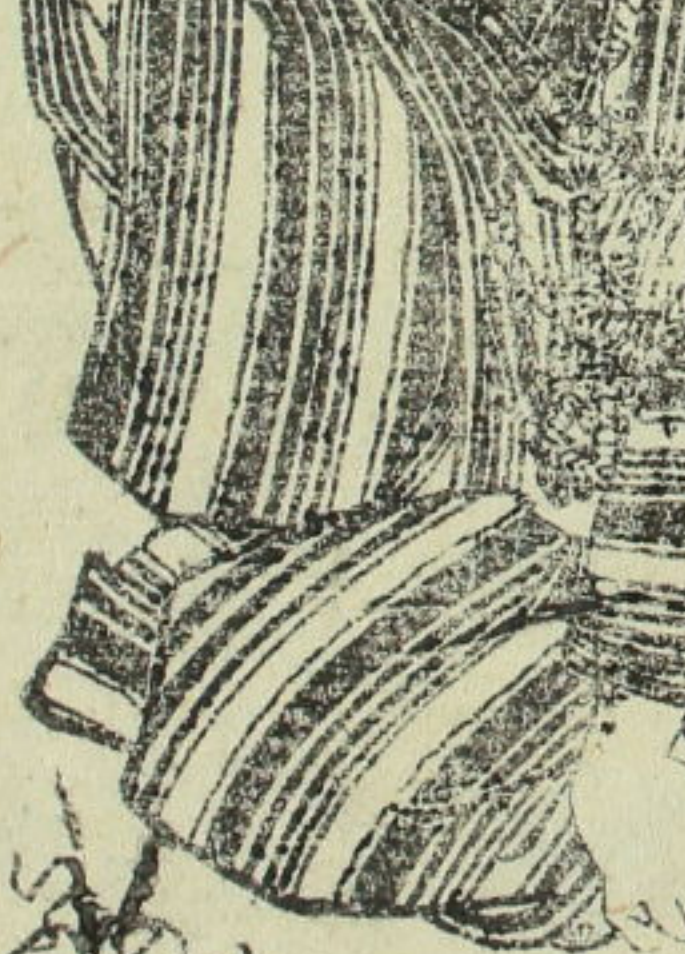
一

金史文苑
卷之五

志賀山志



いふ事あるものなりとて其を八



三あ
 ぐぐぐ
 ●さそ
 ぐぐぐ
 大あや
 のみそ
 のみそ
 八百あやの物く
 といひまじりの中うよ
 あまうのひえんむきひち
 まうんとさると大あやのみな
 渡人

ついでにあらうやいふに
あひをにむそののりなむを

ついでにあらうやいふに
あひをにむそののりなむを



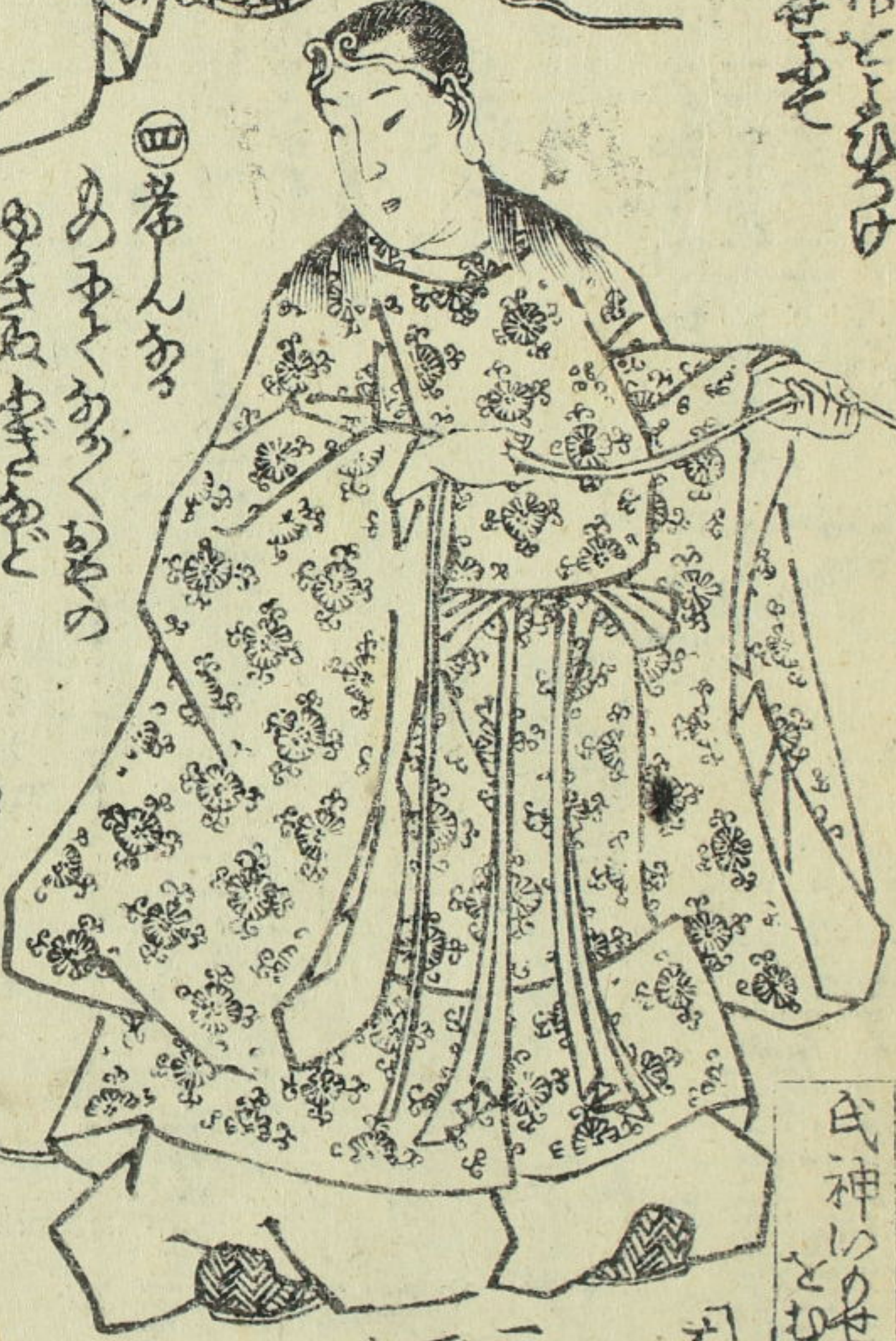
大御主の命

③たてまつると
いふやうに
やのむす
あつこ
そん
むす
つげハ
はあうあ
あうあ



④帯んあ

あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの

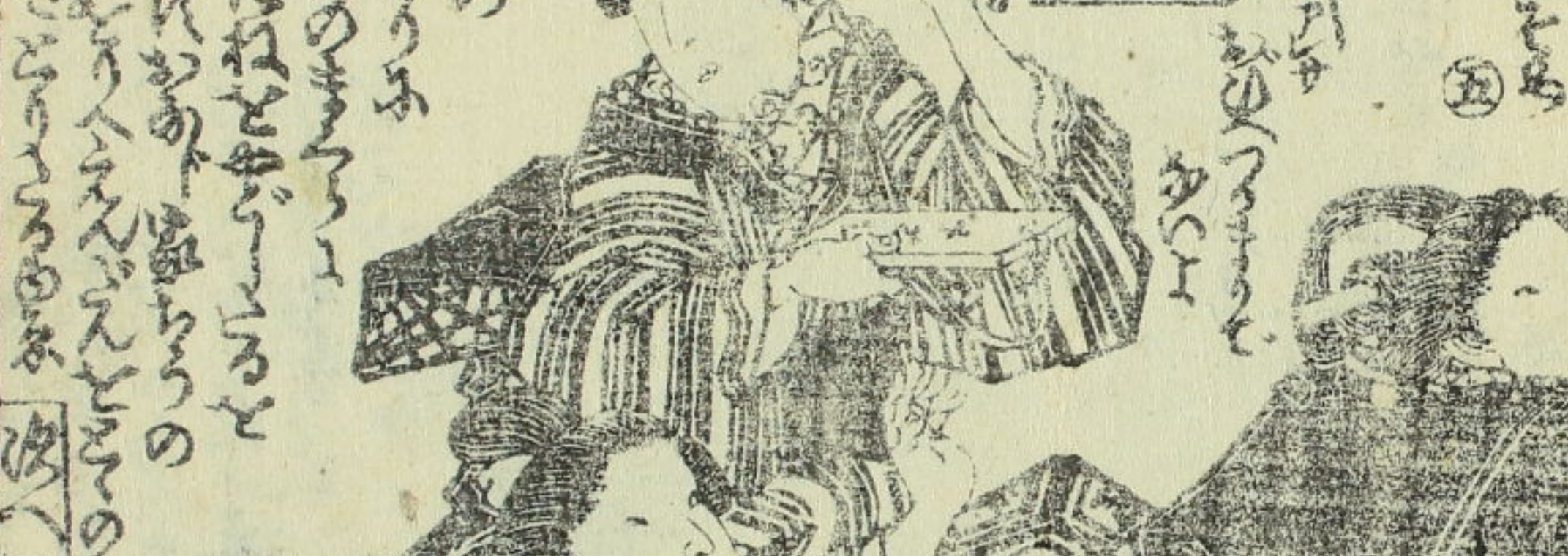


氏神の母のえん
とむきか

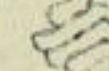
あつこ
あつこ
あつこ
あつこ
あつこ
あつこ
あつこ
あつこ
あつこ
あつこ

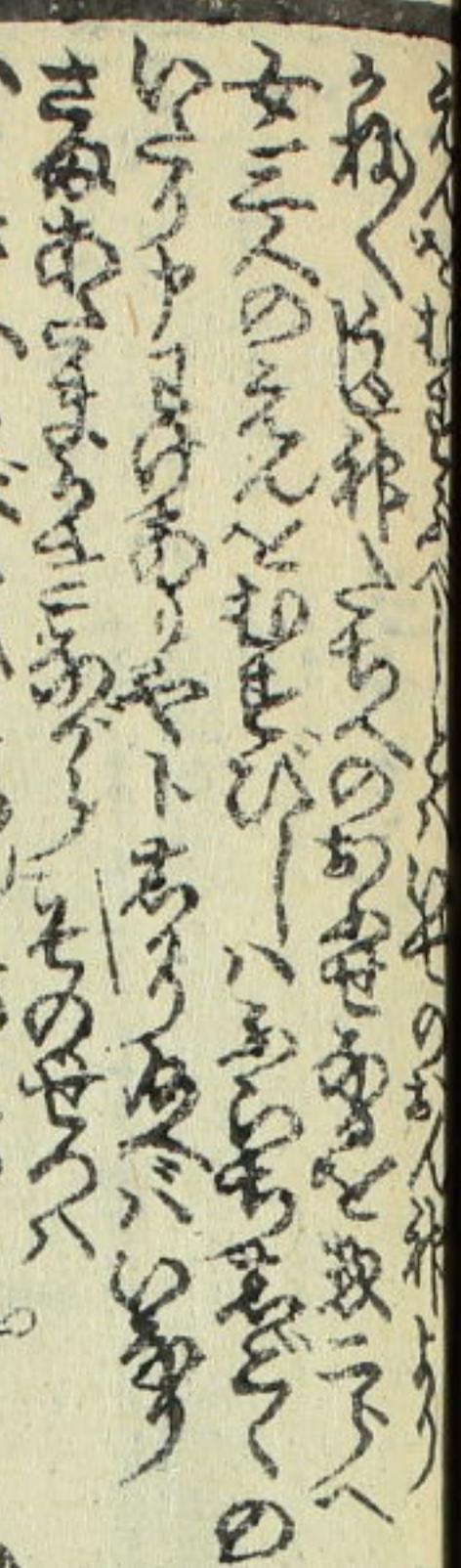
いふの氏神

あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの
あつこあつこの



② してきておけおふくろう
 わけるおやのそちや
 さかうありあふちが
 りてあふちがあふち
 りてあふちであふち
 さうさうのふ


 ④ まろね
 じやゆきさて
 せそありの
 ぢやういあうの
 わんあううの
 んんはそとて
 はんじんぢやゆき
 せさうらねとそん
 るせいのと神の
 ひとなのそまろね

[illegible]

二階
そまへ
さき
ひやう
あぢ
その
のた
あぢふ
あつこ
あうふ
ぐわい
ひやう太
ぢと
ありて
ひやう太
まろ

漢人

母のふりかへてはさすうづふ
やうやうなふりかへてはさす
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ

あひ田段五

ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ
ふりかへてはさすうづふ



あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五

二段

あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五

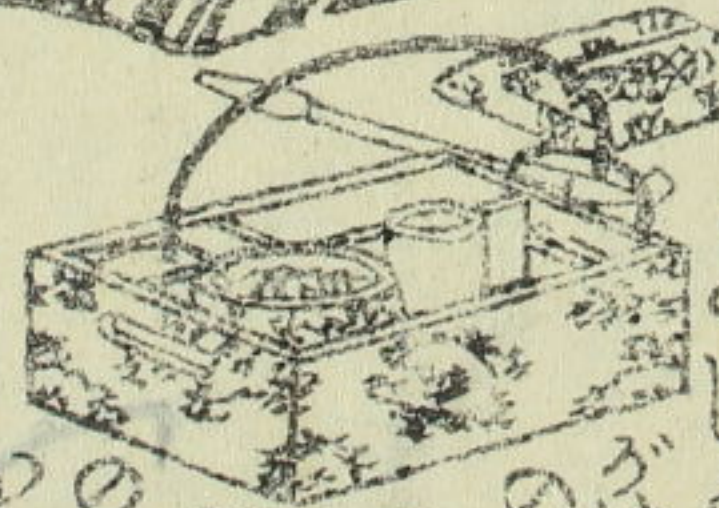


あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五
あひ田段五



あゝいふはあはれやあはれ
とあらまじくかんがへ
あゝいふはあはれやあはれ
とあらまじくかんがへ

あゝいふはあはれやあはれ
とあらまじくかんがへ
あゝいふはあはれやあはれ
とあらまじくかんがへ
あゝいふはあはれやあはれ
とあらまじくかんがへ
あゝいふはあはれやあはれ
とあらまじくかんがへ



あゝいふはあはれやあはれ
とあらまじくかんがへ
あゝいふはあはれやあはれ
とあらまじくかんがへ



あゝいふはあはれやあはれ
とあらまじくかんがへ
あゝいふはあはれやあはれ
とあらまじくかんがへ

あゝいふはあはれやあはれ
とあらまじくかんがへ
あゝいふはあはれやあはれ
とあらまじくかんがへ

あゝいふはあはれやあはれ
とあらまじくかんがへ
あゝいふはあはれやあはれ
とあらまじくかんがへ

③ 此九文のとまき
 より十ねいの
 せんこうちあが
 よくつとあ
 らうつきの
 うりまをど
 ういそせり
 ぐあくのそせど
 いづれあきあひ
 更かこはれどせど
 のうけあいのあひを死
 男あうつまのあをさ
 はさるあやまきよあな
 てつひとつとあ男
 ああわけあひさる
 はあきあきあき
 くらあきけり女
 せあそせあそそ
 おいとあひさ死
 そのあひが

忠作

かみかみ

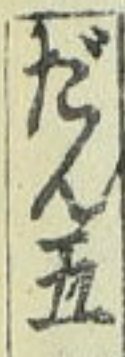
(一) 今人傳ふ事として
おのつともころ
たふ小はるこまと
かしくとまてあ(五)

(六) おひけ
候ふで元
とさういとの
あふみハよき
くちあむらぐやをこ
んとあふハあきあひ
物のあひだも

男の子
うと
(三)

忠作

ゆらひ
に女はあう
さきまへハ
おとこ入
一ちうハ
あふさろ
もつて
さか
あせ
今まで
さくであ
いりあのこ
町人ぞう
あとも
うくも
武主と
あそび
つけん
いけ
あふ
あふ



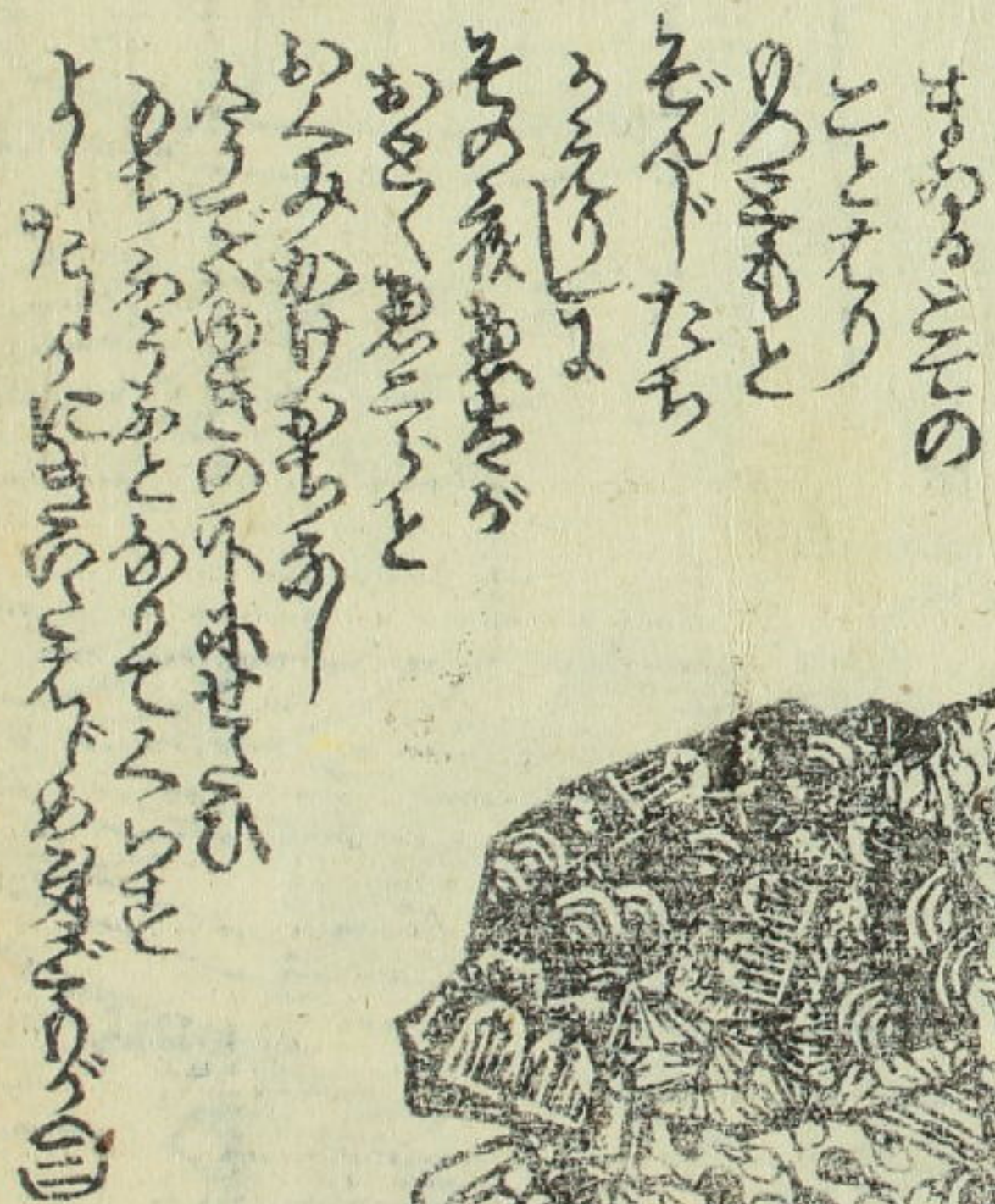
さきづゝろくちき
むねのちき①

① 天竺

下女へ



急郎



卷之四

24

わきのふみ

世兄全之

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or name, oriented vertically.

あまのりくはるくうのう

身もたひりえきふくも

わげきせふめんぎなうしんあゐる

ある二、三の中、其の最もよくあつたものを

① 三三三

三

卷五

① 五七五七七

はつてん

三才圖會

五

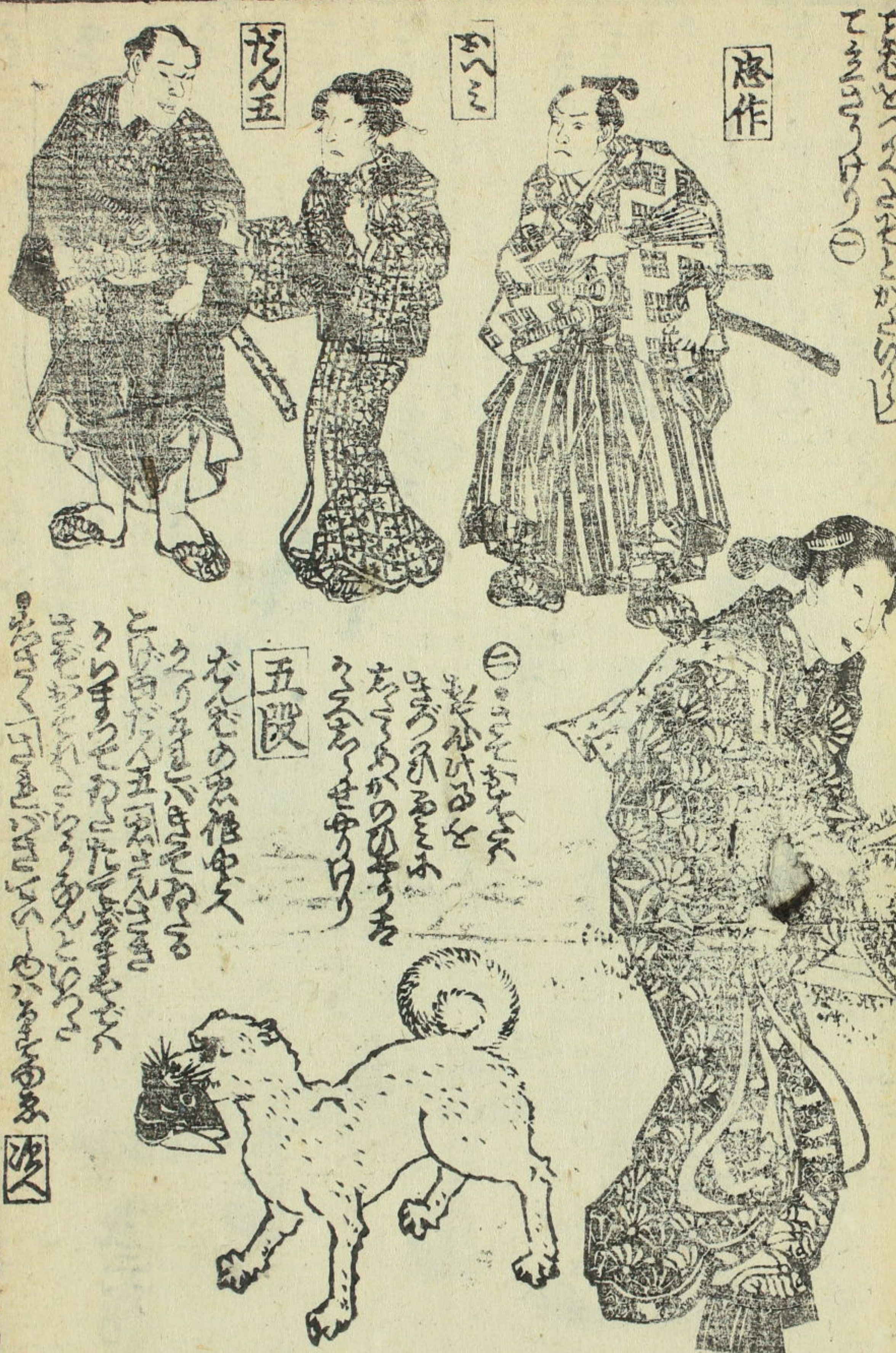
たれをのぞく

五國公約

卷之六

是年七月廿五日
次

次



[illegible]

熱二部

五

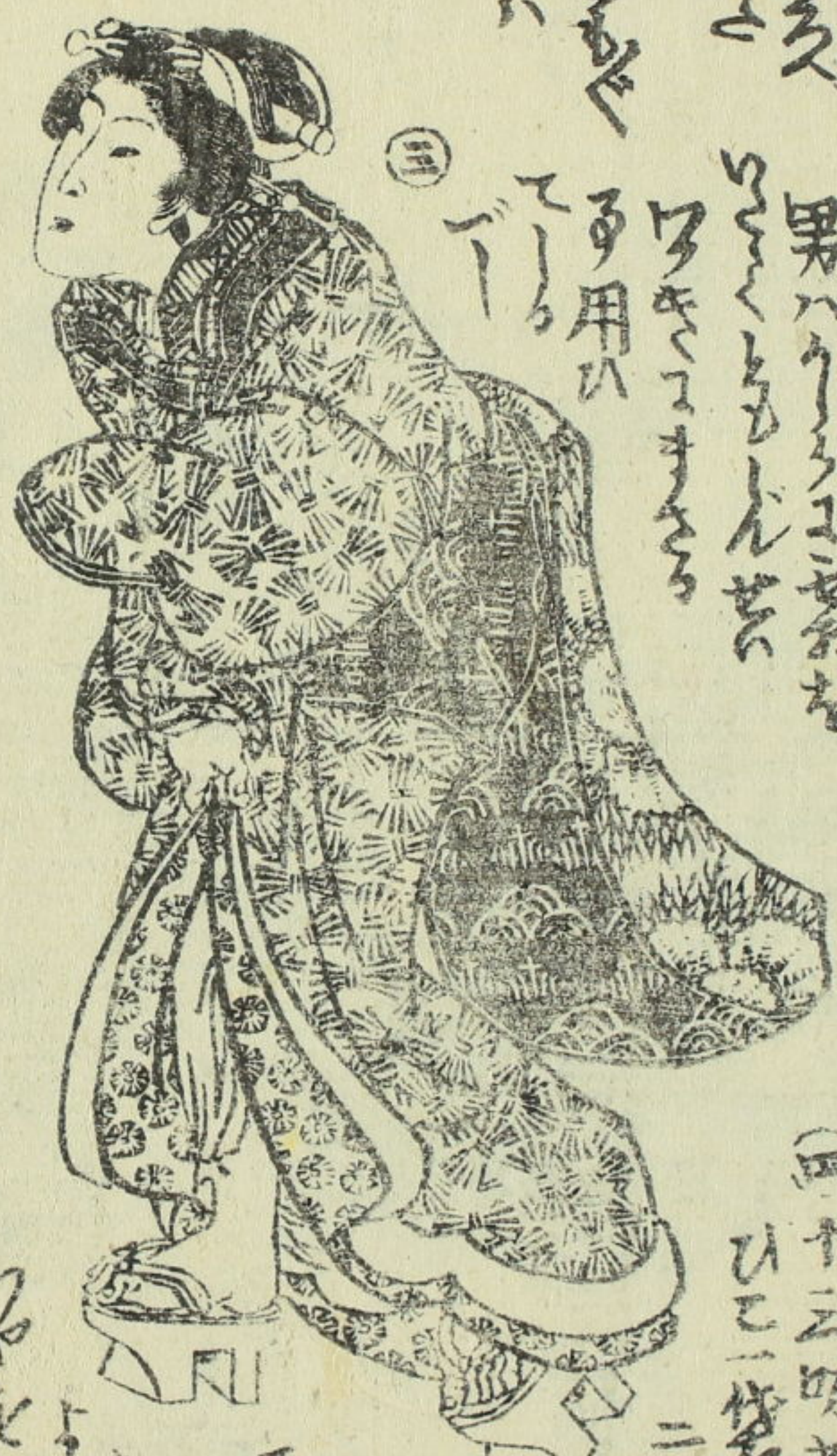
うらむしきことなりけり
 のうにちややせんのうふりとも
 られあふ目うその目くじの
 お志のうと人おひきくちあま
 あまのうとかなんていふくも
 つらくてあま下女はあひくま
 ちやうのうのうもどういふこ
 はあふちやうのうもいふこ
 らのうはあまのうとあまのう
 せうあまのうとあまのう
 とあまのうとあまのう
 あまのうとあまのう
 たん五奴人ぐて
 足さるや
 たん五
 あまのう
 小くひ
 かむひ
 一が
 ちやうのう
 あまのう
 あまのう
 ちやうのう



熱二郎

③とて五六
 ひとて百番
 とり
 りうけん
 りのたえんハ
 せんま
 まはくや
 どのれ
 けらんと
 りうそり
 数二
 うえ
 ちうは
 ちう
 ちうみ
 ちうえんの
 ちうをちうて
 ちうてちう
 ちう
 ちう

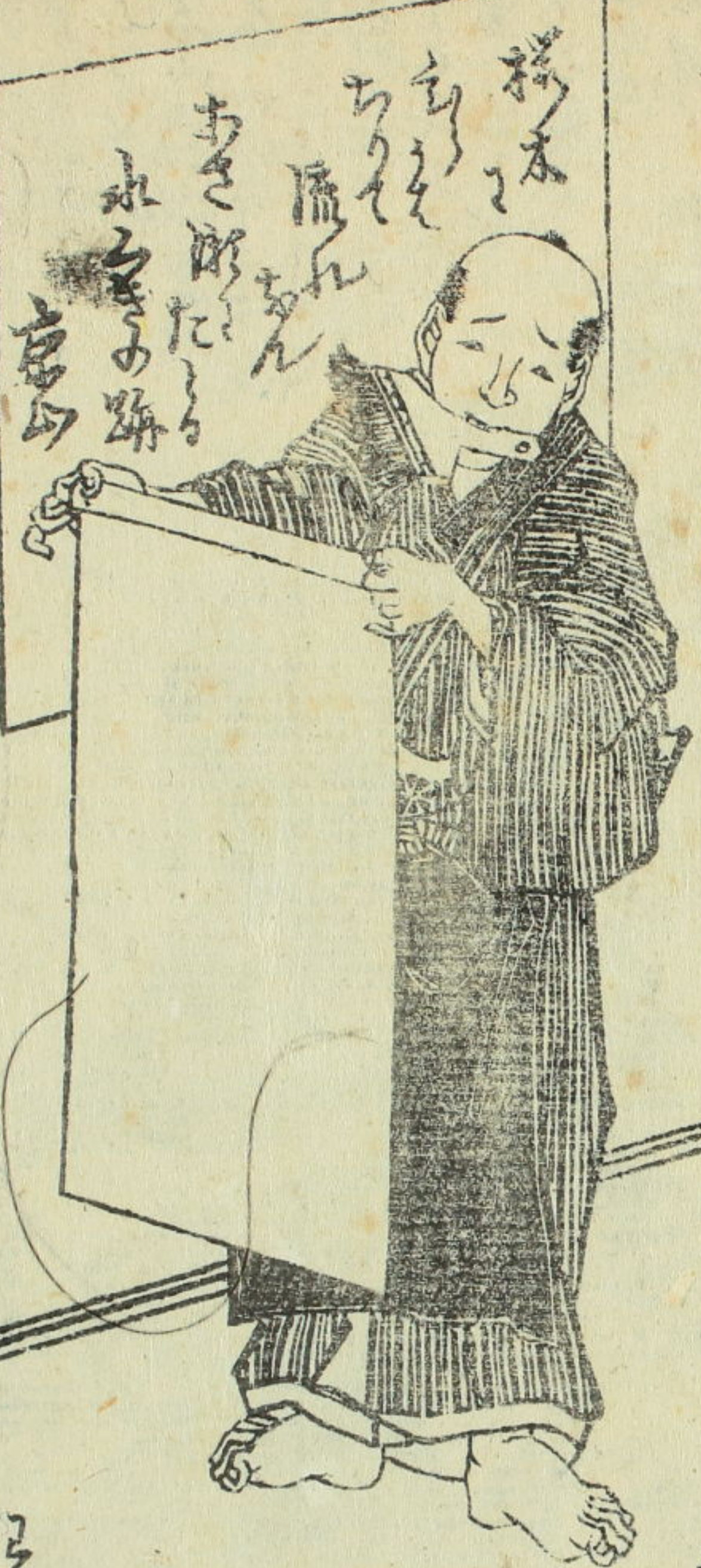
③ 壞妊丹
くまの悪胎を
ぬりや二枚五枚
半枚二枚五
枚五枚以上た
りとも月やこ
うちのたより
うけ合あり
男はうくは
よくよくん
はきこすさ
る用ひ
てし
てし



京八十二公卿山作
豐國画

(六) 此中も
 べき妙なり
 うけ合なり
 おれを
 ぬく
 (五)

琴堂文集卷六



乃々
 中のつるぬけ
 けんてい
 多々
 押花おせし

[illegible]

三
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

美入新象

とび田ん五

おくら

新刊

三下がしんあふ
 まいごまぐ
 ひめま
 ゐ女房ふ
 あねねバ
 あらぬト
 りきむう
 ぶるある
 まの
 あねと
 女房ふ
 まづバ
 むづろ
 あさき
 のに
 さねえ
 は二人
 武士が
 うねつ
 かきか
 ひびく
 つきふ
 ちげま
 あるや

[illegible]

熱下

石

次

そあく
むけが
あうん
あうんと
むけが
あうん
ちあ
ちあ
やう

卷八

美人金六條

忠作

③ ちのそのりん
 どんはあてあ
 けいぶおひあ
 くれをいよくあそ
 小豆うくさひらた

中々せえ
かゝる世の
おもしろう

三
 うまうま
 りふまが
 ちぐろく
 あら
 うま
 ニん
 うま
 るでか
 のつみ
 あり

万々々々々々々々々々
 あんたのうしろを覗いてみる
 ふふふふは、お前さんの
 目まぐるしく動く田舎
 だより、またや二まき
 万々くトキミ
 かみで二入ひつろ
 や二まらひつろ
 お前さん五まき
 むてとんちつあつて
 うつろ。たまに
 コヤニおれもいふ
 ひんえでわろ。や二
 万々いせんいめんごま
 とをわろこわみゆひあれど
 今ハ、お前さんが子あんひつろ
 万々、お前さん。お前さんコヤニ

とひ田だん五

八

あるはともねて、いふまでもうさう
ゆきまじり、いふものちのつらえか
それのもあらばもまづこちをまて
うゝあやまりもむすうのいひくみあむ
まのひめらに中きうらそいらひと
らるゝ今もあふさかたぬのしめさ
うけられただうまきなり百歳の
あじあつ物むんあきて二子あ
さゆ、だん五ふむひ
刑アうけろと

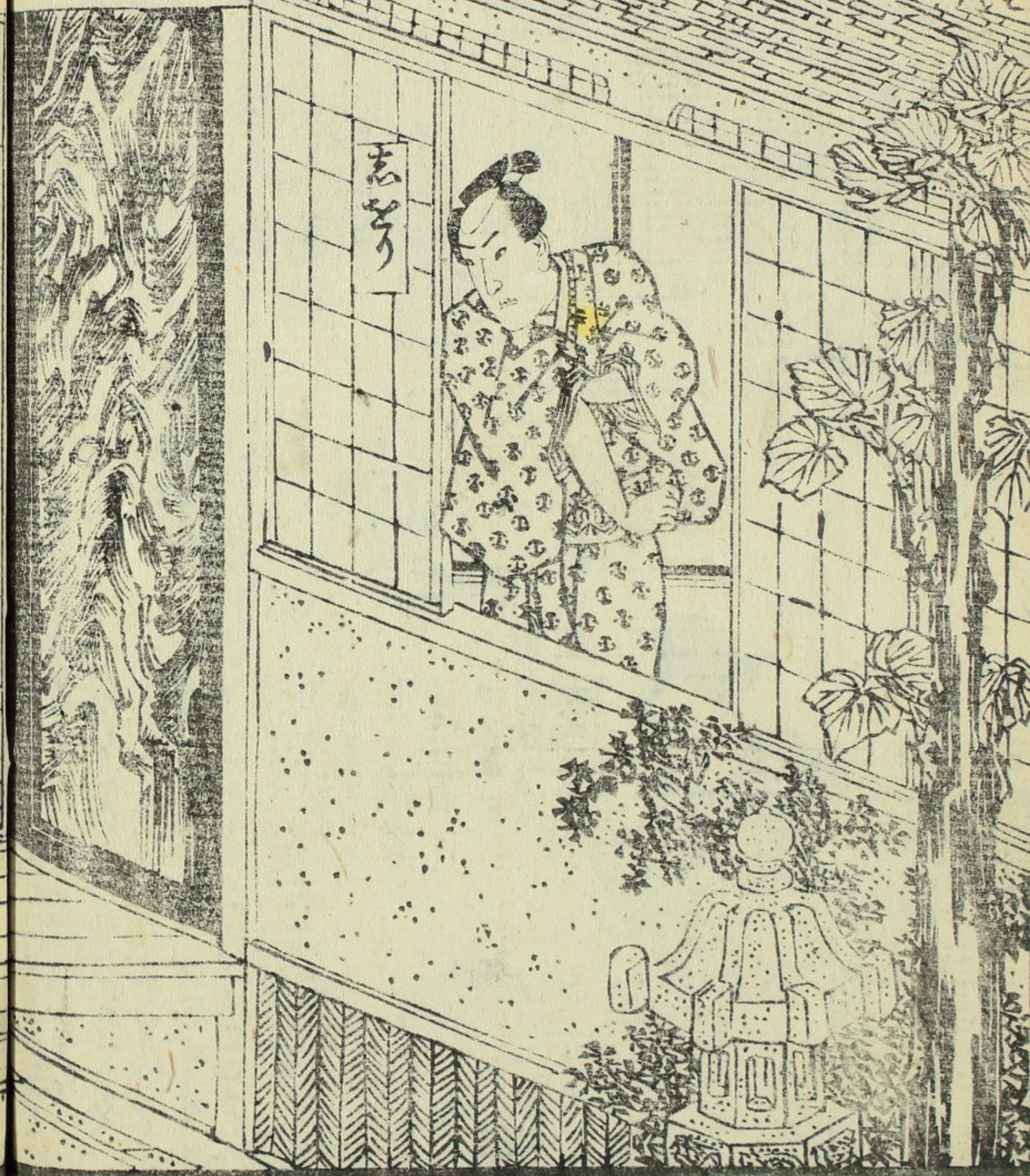
かゝる世に
まづうきを
さしゆくは
利そくハダ
さる。あふ
利そくハダ
あふ。あふ
三人が、又
だん五「そ
いふト
あふ。あふ
あふ。あふ

新

新ひふふふふ

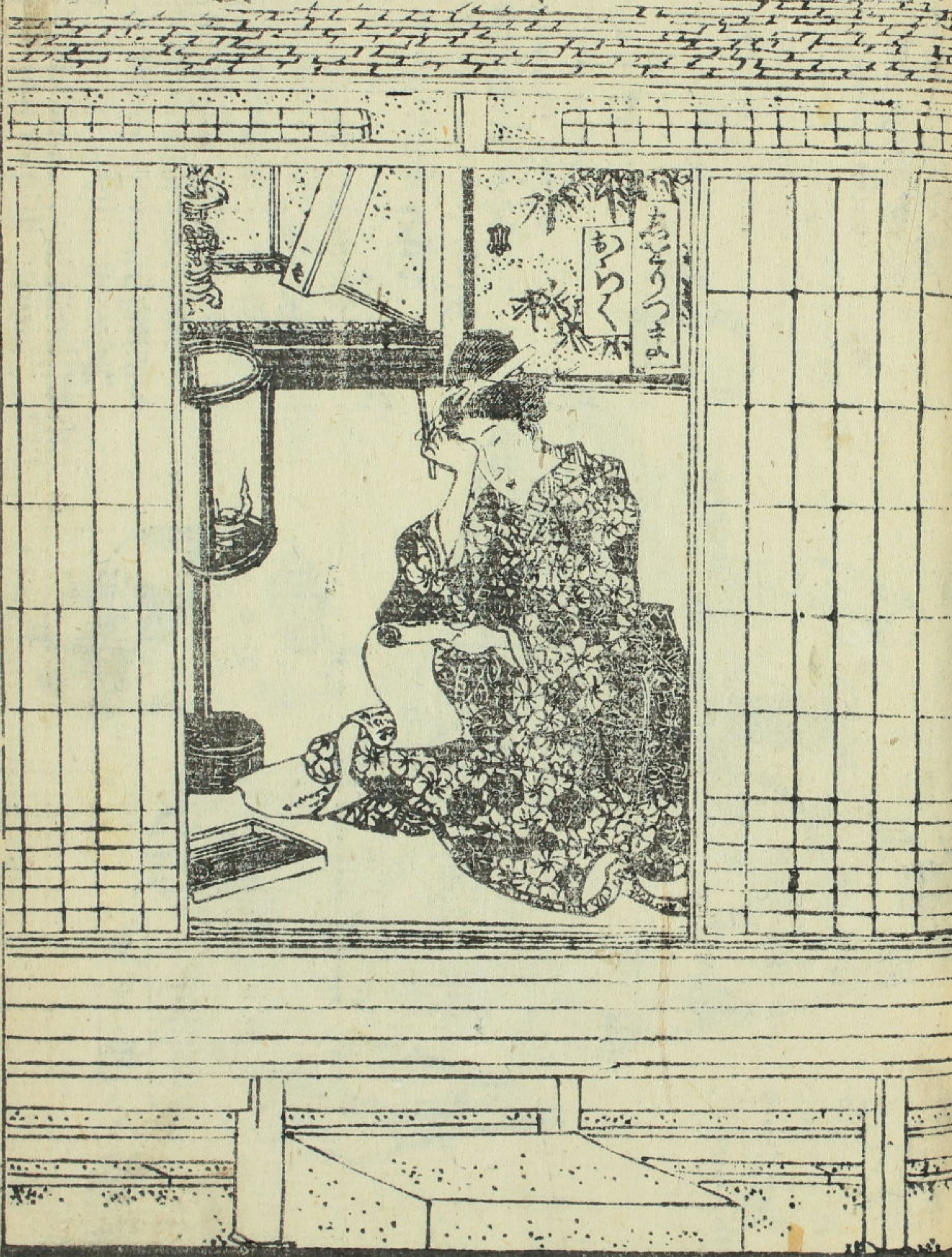
① あいね
 をもてぢ
 とおれんは
 はらう
 おを
 ろいねを
 つまそ
 ませぬ
 二ひた
 ひまのあ
 をさすみ
 こゝろこが
 ちりで
 きつてや
 きのわえ
 けふくあゆ
 初まつい
 おいあが
 夏
 むしこき
 且西そのうち
 ありとなく
 へらる人

美人發上

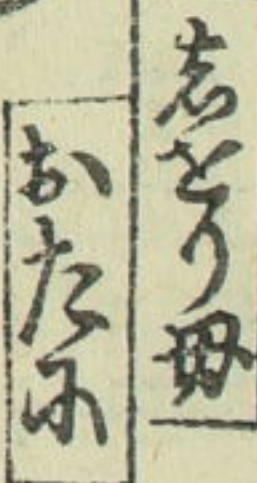


十五

[Handwritten text in a cursive script, likely from a manuscript.]

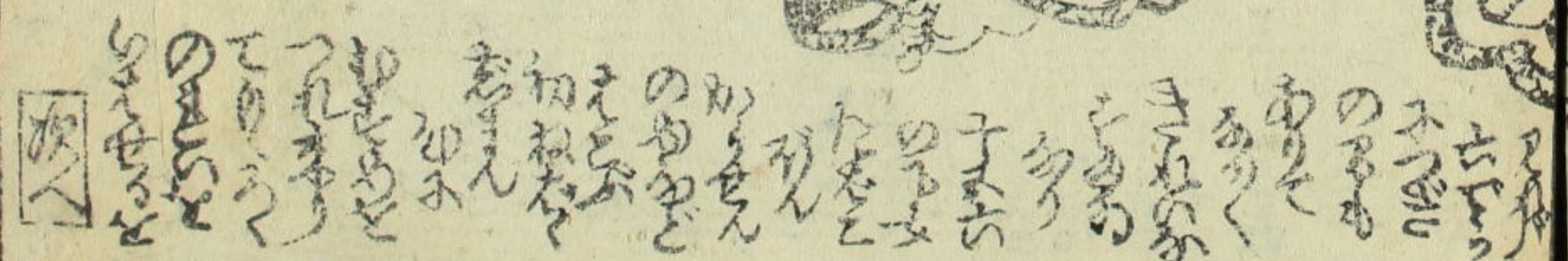


八段

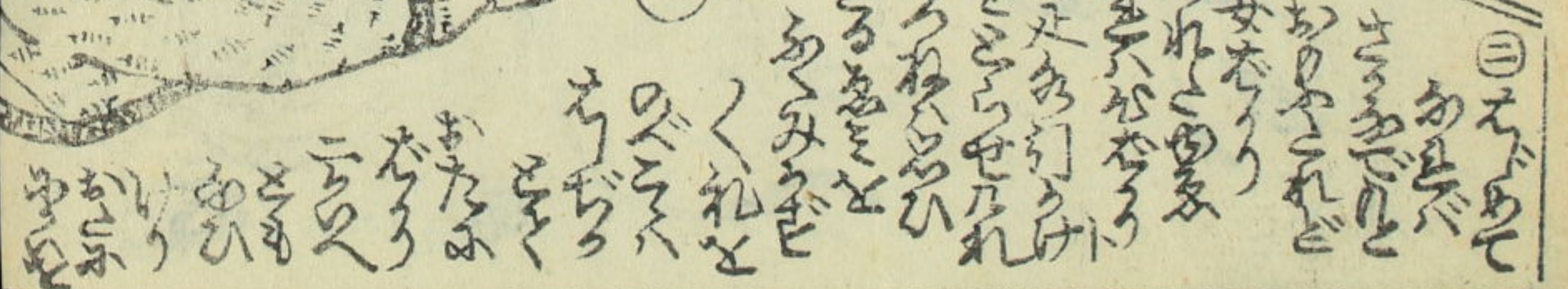
[illegible][illegible]

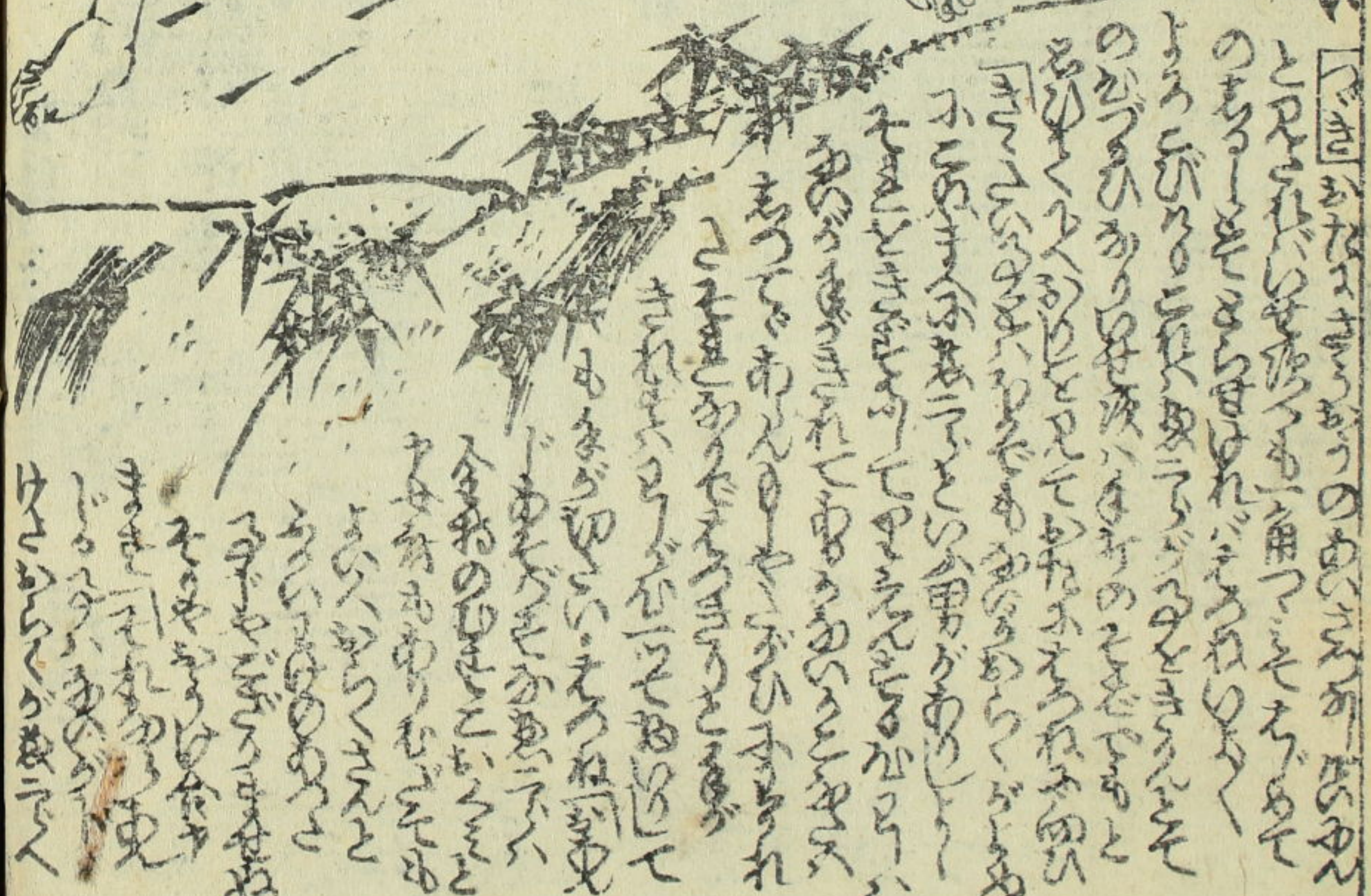
二四六の
 くらゐを
 まゝおひ
 だんド
 とうあや
 ようまの
 ふちの
 奥ざら
 上を
 金をも
 これバ
 くら
 たが
 出る
 りあ
 けり

十段 常と云ふは、
二けんぐちのかげ
づり、は、
とれ、
あ、
あ、
た、
と、

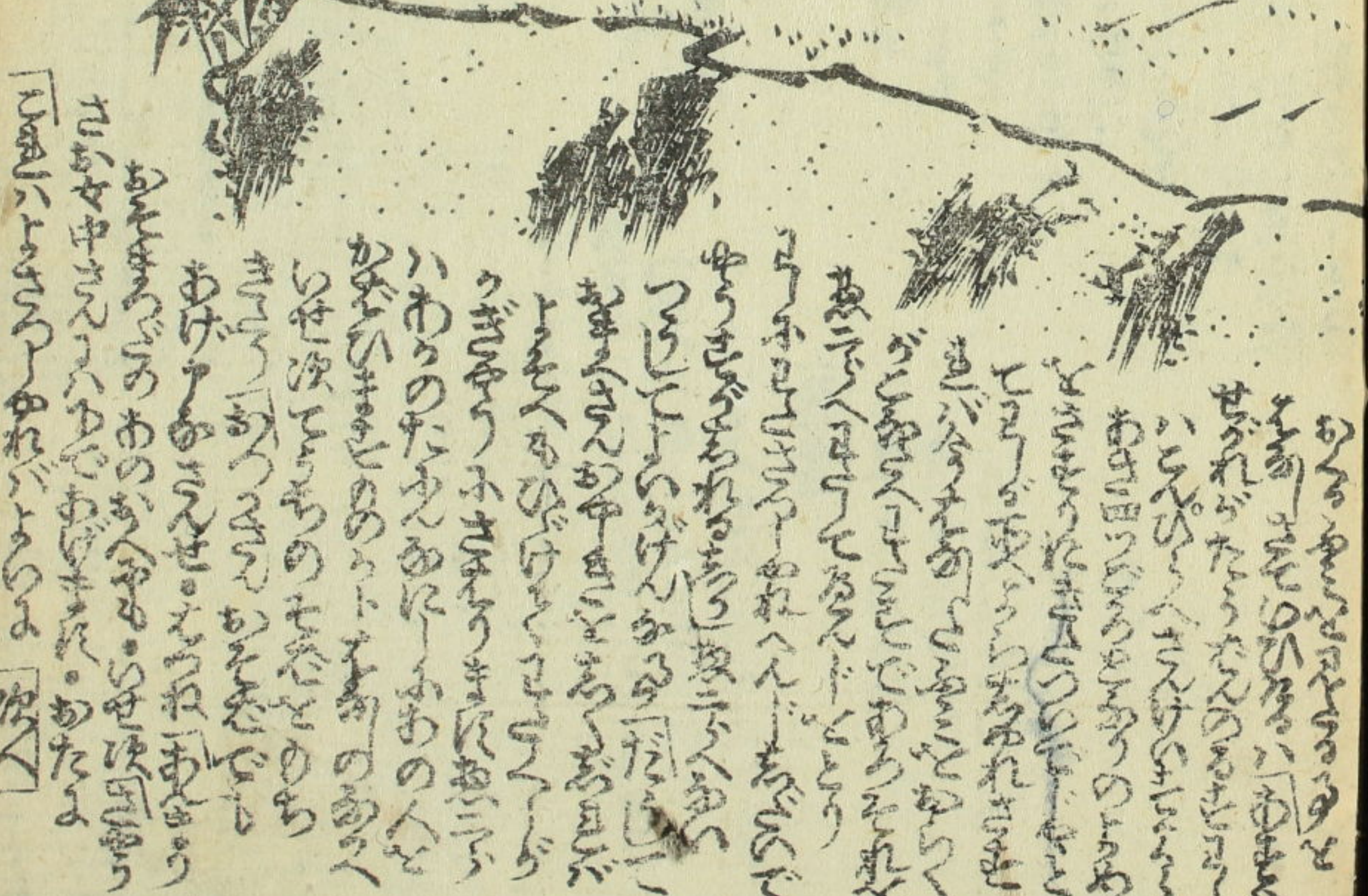
[illegible]

初喜

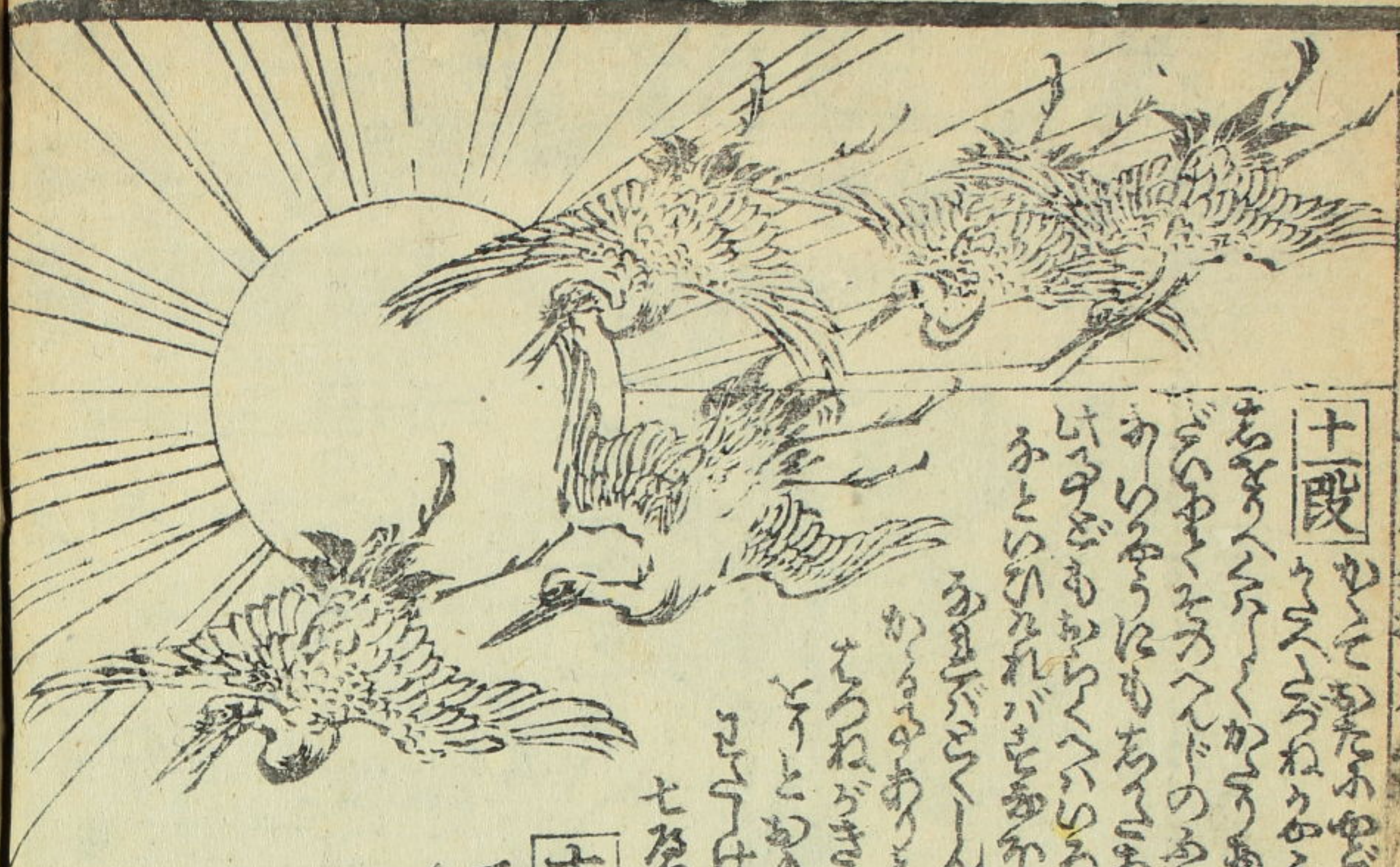




うのめいを所^しあへ
も一^{いち}角つそち^ちめて
はれどなれりよく
まてふゆをきんそ
ハハサのそとでと
えておれオウねみ
そもおのわらうが
その公男があひ
てやえさるか
れてあらあいらと
なりやうひすられ
るそまろこまろ
六^むろぐむそあひて
まぐといまのね
下^{した}めたぞか悪^{わる}く
全^{ぜん}おのむこと
や女^にありむそ
ふんちんと
ふんちんの
ふんちん
そめ
ま
け



(Faint handwritten Japanese text, likely bleed-through from another page)



十一段

十段 かゝてまたおやぐさのそつね
うへへふねりゆうくとせがま
あきへんくかすあてふんだあ
ごいやくちふたんのあをあきと
かいやくにもあてありそれまで
けいやくもあてふいのあめじやあ
ふといひなればあやあるあき

[illegible]

わらわちぢぢぢぢぢ

ちうねうまゐりしをよみ

千とひかりのま

三つづつ・はちぢぢぢ

七卷之足てある世に

十二段

而如まゝを

くみせえのえんがしら

あまぐりのも

月夜衣衣聖也

廿二史劄記

かちまのちけ田ん五

わがやうな

たふし今やかた不意に

ちびめ、いぬとやうと○

京山作

八十二公

豐國通

②いもづちとちぢくちぢく

ヲサテうちなす切とせ

おききとておひききえだん

まねてゐるおじいさん

2226 1861 1862 1863

にまど死に
ぢぢぢ

作者

とまふようのちのひ

才七卷

ひさしに
あはれ

不

卷之六

文



1

